

FUJITSU Tablet ARROWS Tab

ARROWS Tab Q737/R

ARROWS Tab Q737/R-PV

製品ガイド

(機種別編)

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器

4 お手入れ

5 仕様

目次

本書をお読みになる前に	6
安全にお使いいただくために	6
本書の表記	6
Windowsの操作	8
BIOSやドライバーのアップデートについて	9
商標および著作権について	9
第1章 各部名称	
1.1 タブレット本体表面	11
1.2 タブレット本体右側面	13
1.3 タブレット本体左側面	14
1.4 タブレット本体裏面	15
1.5 キーボード	18
1.6 クレードル	20
1.7 キーボード・ドッキングステーション	21
第2章 取り扱い	
2.1 フラットポイント	25
2.1.1 注意事項	25
2.1.2 基本操作	26
2.1.3 高度な操作	27
2.1.4 フラットポイントの設定を変更する	28
2.1.5 フラットポイントの有効／無効を切り替える	29
2.2 マウス	30
2.2.1 注意事項	30
2.2.2 マウスの基本設定を変更する	30
2.3 タッチパネル	31
2.3.1 注意事項	32
2.3.2 基本操作	34
2.3.3 文字を入力する	35
2.3.4 キャリブレーション	36
2.3.5 タッチパネルの設定を変更する	37
2.3.6 ペン先を交換する	38

2.4 ディスプレイ	39
2.4.1 注意事項	39
2.4.2 明るさを調整する	39
2.4.3 解像度を変更する	41
2.4.4 拡大表示設定を変更する	42
2.4.5 ディスプレイ省電テクノロジー	43
2.5 マルチディスプレイ機能	44
2.5.1 マルチディスプレイ機能とは	44
2.5.2 注意事項	44
2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する	45
2.6 画面表示の回転	46
2.6.1 手動で画面表示の向きを変える	46
2.6.2 状態が変わったときの動作を設定する	47
2.7 サウンド	48
2.7.1 全体の再生音量を調節する	48
2.7.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する	49
2.7.3 機器や項目ごとの音量を調節する	49
2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える	51
2.7.5 既定のオーディオ機器を選択する	51
2.8 省電力	52
2.8.1 省電力状態	52
2.8.2 電源を切る	54
2.8.3 本タブレットの節電機能	55
2.8.4 省電力設定	55
2.9 バッテリー	57
2.9.1 注意事項	57
2.9.2 バッテリーを充電する	58
2.9.3 バッテリーの残量を確認する	58
2.9.4 バッテリーの状態を確認する	59
2.10 通信	60
2.10.1 有線LAN	60
2.10.2 無線LAN	61
2.10.3 無線WAN	62
2.10.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー	62
2.10.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する	62
2.11 ステータスパネルスイッチ	64
2.11.1 注意事項	64
2.11.2 ステータスパネルスイッチを起動する	64
2.11.3 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える	65
2.11.4 各モードの設定を変更する	67
2.11.5 ワンタッチキャプチャを利用する	68

2.12	ダイレクト・メモリスロット	69
2.12.1	注意事項	69
2.12.2	使用できるメモリーカード	69
2.12.3	メモリーカードをセットする	69
2.12.4	メモリーカードを取り出す	70
2.13	暗号化機能付フラッシュメモリーディスク	71
2.14	セキュリティチップ（TPM）	72
2.15	防水性能	73
2.15.1	防水性能でできること	73
2.15.2	防水性能を維持するために	74
2.15.3	防水性能をお使いになるうえでの注意	75
2.15.4	水抜き	76
2.15.5	充電のときの注意	77

第3章 周辺機器

3.1	周辺機器を取り付ける前に	79
3.1.1	注意事項	79
3.2	クレードル	80
3.2.1	注意事項	80
3.2.2	クレードルを取り付ける	81
3.2.3	クレードルを取り外す	82
3.3	キーボード・ドッキングステーション	83
3.3.1	注意事項	83
3.3.2	キーボード・ドッキングステーションを取り付ける	85
3.3.3	キーボード・ドッキングステーションを取り外す	86
3.3.4	キーボード・ドッキングステーションのバッテリーを充電する	87
3.3.5	キーボード・ドッキングステーションのバッテリーの残量を確認する	88
3.3.6	キーボード・ドッキングステーションのバッテリーを交換する	89
3.4	nanoSIMカード	91
3.4.1	注意事項	91
3.4.2	nanoSIMカードをセットする	92
3.4.3	nanoSIMカードを取り出す	93
3.5	アタッチメント／ストラップ	94
3.5.1	注意事項	94
3.5.2	アタッチメントを取り付ける	95
3.6	コネクタの接続／取り外し	96
3.6.1	注意事項	96
3.6.2	ディスプレイコネクタ	96
3.6.3	USBコネクタ	97
3.6.4	オーディオ端子	98
3.6.5	LANコネクタ	98

第4章 お手入れ

4.1 日常のお手入れ	100
4.1.1 タブレット本体、クレードル、 キーボード・ドッキングステーションの表面の汚れ	100
4.1.2 手のひら静脈センサー	100
4.1.3 液晶ディスプレイ／タッチパネル	101

第5章 仕様

5.1 本体仕様	103
5.1.1 ARROWS Tab Q737/R	103
5.1.2 ARROWS Tab Q737/R-PV	111
5.2 CPU	117
5.3 ディスプレイ	119
5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度	119
5.3.2 クローン表示の解像度	121
5.4 無線LAN	122

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2017年7月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

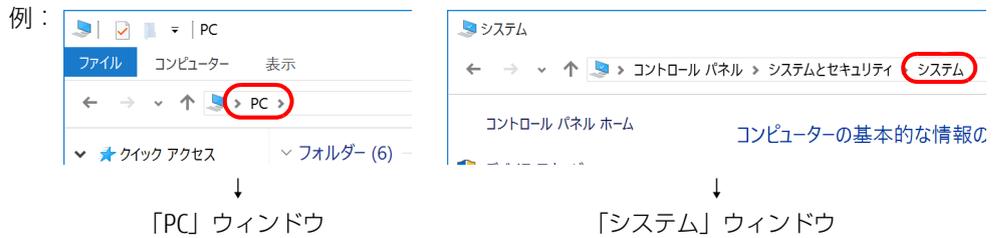
例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をタップし、「システム」をタップし、「デバイスマネージャー」をタップする操作

↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にタップします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。



■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 10 Pro 64ビット版	Windows 10 (64ビット版)	Windows 10	Windows
Bluetooth®	Bluetooth		

Windowsの操作

■ アクションセンター

アプリからの通知を表示する他、タップすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

- 1 画面の右端を左方向に、画面の外から中へスワイプします。
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にタップします。

■ Windowsのヘルプ

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントをご覧ください。

Windowsのヒントのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。

- 1 「スタート」ボタン→「ヒント」をタップします。
- 2 画面左側のメニューで「ヒントを参照する」をタップします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

デスクトップ画面右下の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の  をタップします。

■ Windows モビリティセンター

本タブレットのいくつかの機能は、「Windows モビリティセンター」で操作できます。「Windows モビリティセンター」は次の操作で起動します。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン（）を右タップ（長押し）し、「Windows モビリティセンター」をタップします。

POINT

- ▶ 次の操作でも「Windows モビリティセンター」を表示できます。
 - ・「スタート」ボタンを右タップ（長押し）する
 - 表示されたメニューから「モビリティセンター」をタップします。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本タブレットには、さまざまなソフトウェアや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。

これらのソフトウェア、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本タブレットをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intelロゴ、Intel Core、Intel SpeedStep、Intel vProは、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、富士通株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing, LLCの商標または、登録商標です。



SDXCロゴはSD-3C, LLC.の商標です。

Xi、FOMAはNTTドコモの商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2017

本タブレットは、VCCI自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合した文言、またはマークを画面に電子的に表示しています。表示の操作方法は、『製品ガイド（共通編）』の「付録3 認定および準拠について」をご覧ください。

本タブレットは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技術マークを画面に表示することができます。表示の操作方法は、『製品ガイド（共通編）』の「付録3 認定および準拠について」をご覧ください。

1

第1章

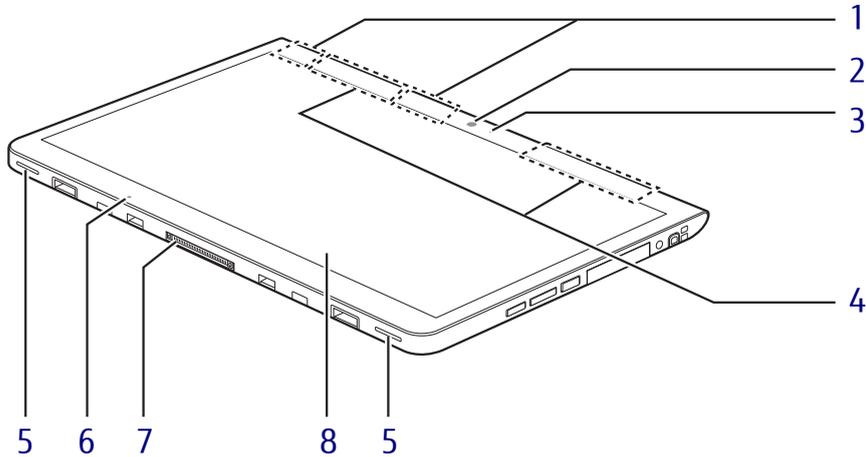
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1	タブレット本体表面	11
1.2	タブレット本体右側面	13
1.3	タブレット本体左側面	14
1.4	タブレット本体裏面	15
1.5	キーボード	18
1.6	クレードル	20
1.7	キーボード・ドッキングステーション	21

1.1 タブレット本体表面

■ ARROWS Tab Q737/R



1 ワイヤレスアンテナ

無線LAN・Bluetoothワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

2 インWebカメラ

自分を撮影するときなどに使います。

3 インWebカメラ状態表示LED

インWebカメラが動作しているときに点灯します。

4 無線WANアンテナ

（無線WAN搭載機種）

無線WANのアンテナが内蔵されています。

5 スピーカー

6 照度センサー

（→P.39）

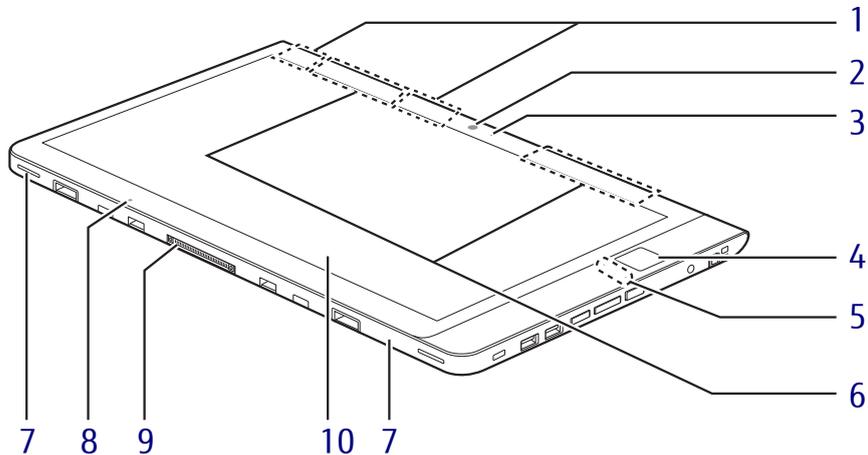
7 ドッキングコネクタ

（→P.81）／（→P.85）

8 液晶ディスプレイ／タッチパネル

（→P.39）／（→P.31）

■ ARROWS Tab Q737/R-PV



1 ワイヤレスアンテナ

無線LAN・Bluetoothワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

2 インWebカメラ

自分を撮影するときなどに使います。

3 インWebカメラ状態表示LED

インWebカメラが動作しているときに点灯します。

4 手のひら静脈センサー

Windowsの起動、ソフトウェアのサインイン時に、手のひら静脈認証によるセキュリティを設定できます。

詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

お手入れについては、「4.1.2 手のひら静脈センサー」（→P.100）をご覧ください。

5 内蔵マイク

音声通話や録音ができます。

6 無線WANアンテナ

（無線WAN搭載機種）

無線WANのアンテナが内蔵されています。

7 スピーカー

8 照度センサー

（→P.39）

9 ドッキングコネクタ

（→P.81）／（→P.85）

10 液晶ディスプレイ／タッチパネル

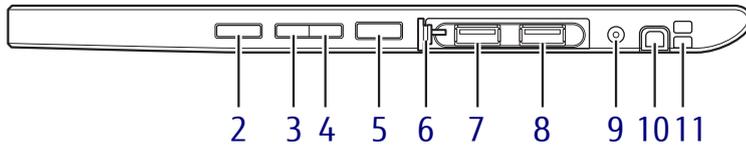
（→P.39）／（→P.31）

1.2 タブレット本体右側面

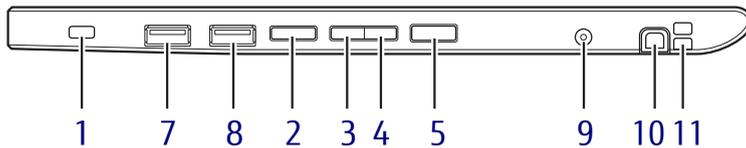
■ ARROWS Tab Q737/R

重要

- ▶ 標準モデルは防水に対応しています。
スマートカード選択時およびVESAマウント・ハンドストラップ・ショルダーストラップ対応を選択した場合は防水には対応していません。



■ ARROWS Tab Q737/R-PV（防水非対応）



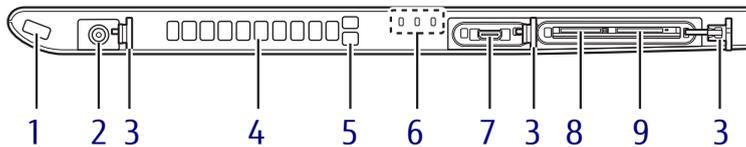
- 1**  盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」
(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。
- 2**  ショートカットボタン
・短く押したとき
ステータスパネルスイッチ（→P.64）を起動する
・長く押したとき
ワンタッチキャプチャ（→P.68）で画面をキャプチャする
- 3** ボリュームダウンボタン（－）
音量を小さくします。（→P.48）
- 4** ボリュームアップボタン（＋）
音量を大きくします。（→P.48）
- 5**  電源ボタン
タブレット本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.52）にしたりします。
- 6** カバー
- 7**  USB 2.0 コネクタ
（→P.97）
- 8**  USB 3.0 コネクタ
（→P.97）
- 9**  マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子
ARROWS Tab Q737/Rで標準モデルの場合には防水に対応しています。
ARROWS Tab Q737/RでスマートカードおよびVESAマウント・ハンドストラップ・ショルダーストラップ対応を選択した場合、またARROWS Tab Q737/R-PVは防水には対応していません。
（→P.98）
- 10** ペンホルダー（ペン）
専用ペンを選択した場合、ペンを格納します。
- 11** ペンひも取り付け用穴

1.3 タブレット本体左側面

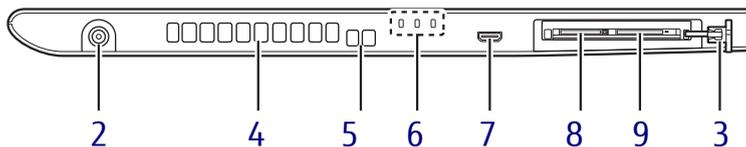
■ ARROWS Tab Q737/R

👉 重要

- ▶ 標準モデルは防水に対応しています。
スマートカード選択時およびVESAマウント・ハンドストラップ・ショルダーストラップ対応を選択した場合は防水には対応していません。



■ ARROWS Tab Q737/R-PV（防水非対応）



- 1** 盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」
(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

- 2** DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

- 3** カバー

- 4** 排気孔
タブレット本体内部の熱を外部に逃がしません。

- 5** ペンひも取り付け用穴

- 6** 状態表示LED
・ 電源ランプ
本タブレットの状態を表示します。

LED表示	タブレット本体の状態
白色点灯	動作状態
白色点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

- ・ バッテリー充電ランプ
(→P.58)
- ・ ワイヤレス通信ランプ
本タブレットの状態を表示します。

LED表示	無線通信状態
白色点灯	可（機内モード（→P.63）オフ時）
白色点滅	可
消灯	不可（機内モード（→P.63）オン時）

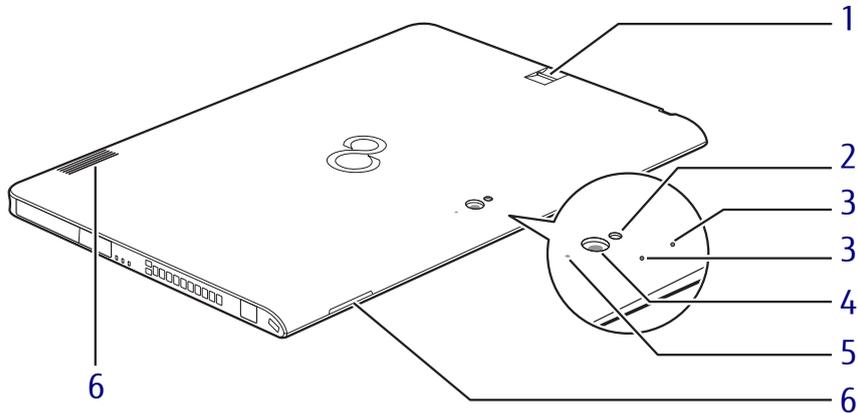
- 7** HDMI microHDMI出力端子
(→P.96)

- 8** microSD ダイレクト・メモリースロット
microSDメモリーカードを差し込みます。
(→P.69)

- 9** nanoSIMカードスロット
(無線WAN搭載機種)
(→P.91)

1.4 タブレット本体裏面

■ ARROWS Tab Q737/R（標準モデル）



1 指紋センサー

コンピューターやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。

詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

2 アウトWebカメラ用ライト

静止画や動画を撮影するときに使用しません。

3 内蔵マイク

音声通話や録音ができます。

4 アウトWebカメラ

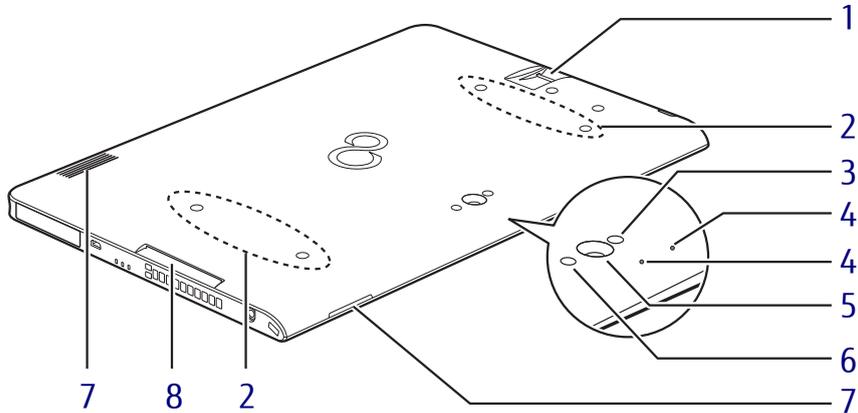
5 アウトWebカメラ状態表示LED

アウトWebカメラが動作しているときに点灯します。

6 吸気孔

冷却用空気を取り込むための穴です。

■ ARROWS Tab Q737/R（スマートカード／ VESAマウント・ハンドストラップ・ショルダーストラップ選択時）



1 指紋センサー

コンピューターやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。

詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

2 ネジ穴

アタッチメント、ハンドストラップ、ショルダーストラップを取り付けます。

（→P.94）

3 アウトWebカメラ用ライト

静止画や動画を撮影するときを使用します。

4 内蔵マイク

音声通話や録音ができます。

5 アウトWebカメラ

6 アウトWebカメラ状態表示LED

アウトWebカメラが動作しているときに点灯します。

7 吸気孔

冷却用空気を取り込むための穴です。

8 スマートカードスロット

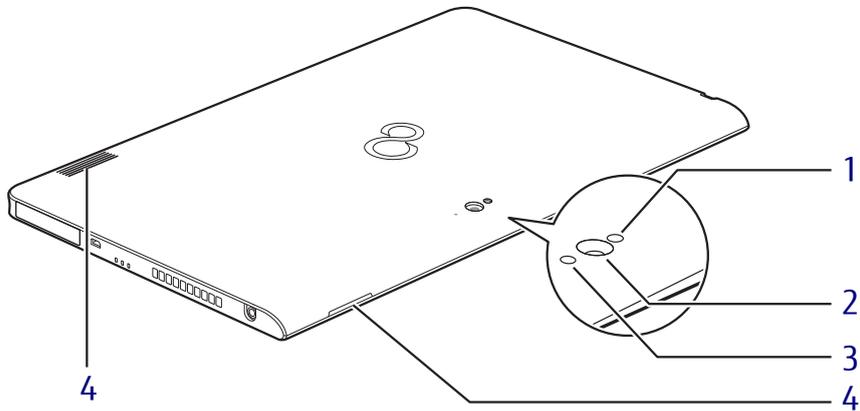
（スマートカード搭載機種）

Windowsの起動や、ソフトウェアのサインイン時のセキュリティ認証用に使えるスマートカードをセットします。

スマートカードはICチップのある方を下側（パネル側）にして挿入してください。

詳しくは、『SMARTACCESSファーストステップガイド』をご覧ください。

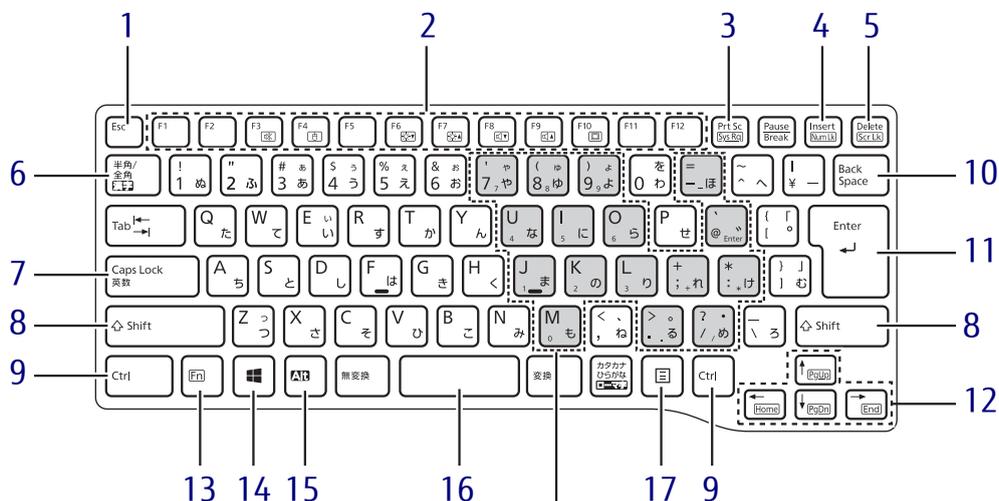
■ ARROWS Tab Q737/R-PV



- 1** アウトWebカメラ用ライト
静止画や動画を撮影するときに使
います。
- 2** アウトWebカメラ
- 3** アウトWebカメラ状態表示LED
アウトWebカメラが動作している
ときに点灯します。
- 4** 吸気孔
冷却用空気を取り込むための穴
です。

1.5 キーボード

対象 キーボード・ドッキングステーション使用時



【グレー部分】
テンキーになるキー（→P.19）

- 1 【Esc】 キー
- 2 ファンクションキー（【F1】～【F12】）
- 3 【Prt Sc】 キー
画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。
- 4 【Insert】 キー／【Num Lk】 キー

【Insert】 キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】 キー	テンキーモード（→P.19）のオン／オフを切り替える 【Fn】 キーと組み合わせて使う

- 5 【Delete】 キー／【Scr Lk】 キー

【Delete】 キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】 キー	【Fn】 キーと組み合わせて使う

- 6 【半角／全角】 キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

- 7 【Caps Lock】 キー
【Shift】 キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットのの大文字／小文字を切り替えます。

- 8 【Shift】 キー
- 9 【Ctrl】 キー
- 10 【Back Space】 キー
- 11 【Enter】 キー
- 12 カーソルキー
- 13 【Fn】 キー

【Fn】 キーを押しながら、枠で囲われている刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

【Fn】 + 【F3/🔊】	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える（→P.48）
【Fn】 + 【F4/📍】	フラットポイントの有効と無効を切り替える（→P.29）
【Fn】 + 【F6/🌑】	液晶ディスプレイを暗くする（→P.39）
【Fn】 + 【F7/🌞】	液晶ディスプレイを明るくする（→P.39）
【Fn】 + 【F8/🔇】	音量を小さくする（→P.48）
【Fn】 + 【F9/🔊】	音量を大きくする（→P.48）
【Fn】 + 【F10/🖥️】	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える

【Fn】 + 【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Fn】 + 【Ctrl】 + 【←/Home】	文章の最初に移動する
【Fn】 + 【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【Fn】 + 【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える

14 【】 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】 キー

16 【Space】 キー

17 【】 (アプリケーション) キー

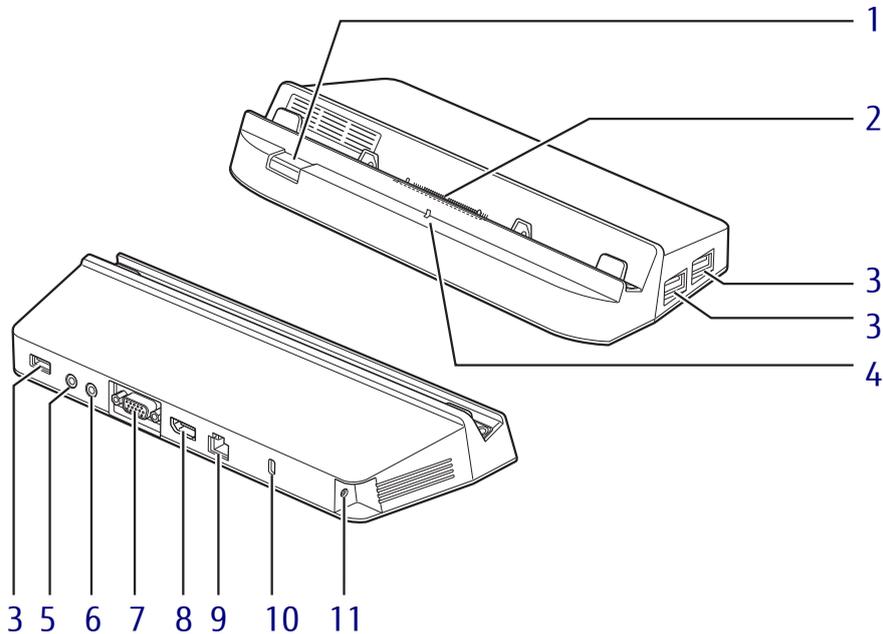
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LEDのNum Lockランプが点灯します。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの下段に小さい文字で刻印されています。

1.6 クレードル

対象 クレードル使用時



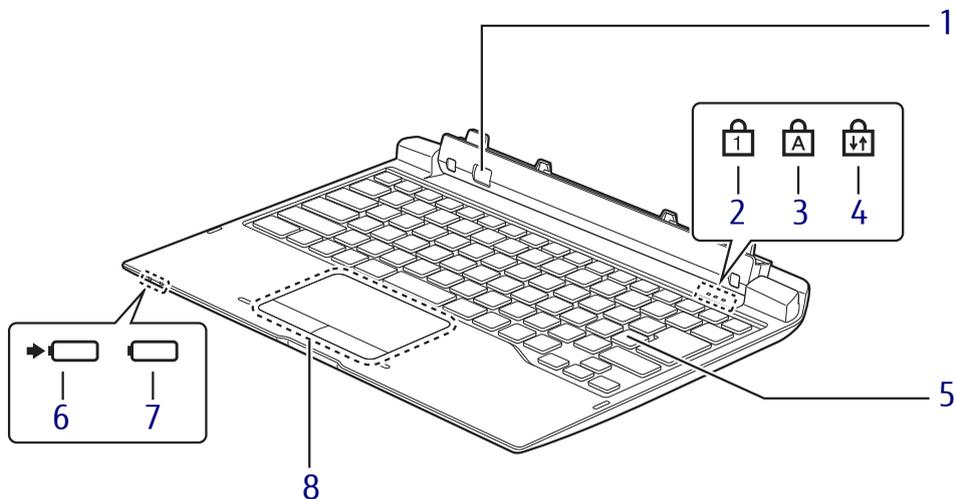
- 1** 取り外しボタン
クレードルをタブレット本体から取り外す場合に押します。(→P.82)
- 2** 本体接続コネクタ
タブレット本体にあるドッキングコネクタを接続します。(→P.81)
- 3** USB 3.0 コネクタ
(→P.97)
- 4** 接続確認ランプ
タブレット本体と接続されると点灯します。
- 5** マイク・ラインイン兼用端子
(→P.98)
- 6** ヘッドホン・ラインアウト兼用端子
(→P.98)
- 7** アナログディスプレイコネクタ
(→P.96)
- 8** HDMI HDMI 出力端子
(→P.96)
- 9** LAN コネクタ
(→P.98)
- 10** 盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。
- 11** DC-IN コネクタ
タブレット本体に添付のACアダプタを接続します。

LED表示	タブレット本体と接続時の状態
青色点灯	正常に接続されています。
消灯	・タブレット本体ときちんと接続されていません。取り付けなおしてください。 ・ACアダプタが接続されていません。

1.7 キーボード・ドッキングステーション

対象 キーボード・ドッキングステーション使用時

■ 前面



1 取り外しボタン

キーボード・ドッキングステーションをタブレット本体から取り出す場合に押します。
(→P.86)

2 Num Lockランプ

キーボードがテンキーモード (→P.19) のときに点灯します。

3 Caps Lockランプ

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

4 Scroll Lockランプ

【Fn】 + 【Scr Lk】 キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

5 キーボード

(→P.18)

6 バッテリー充電ランプ

(→P.87)

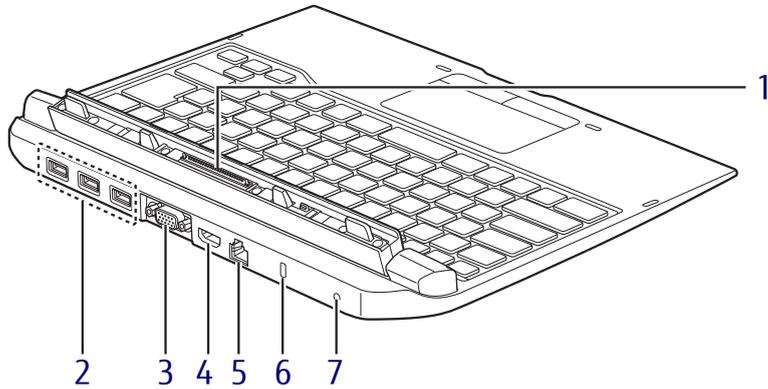
7 バッテリー残量ランプ

(→P.88)

8 フラットポイント

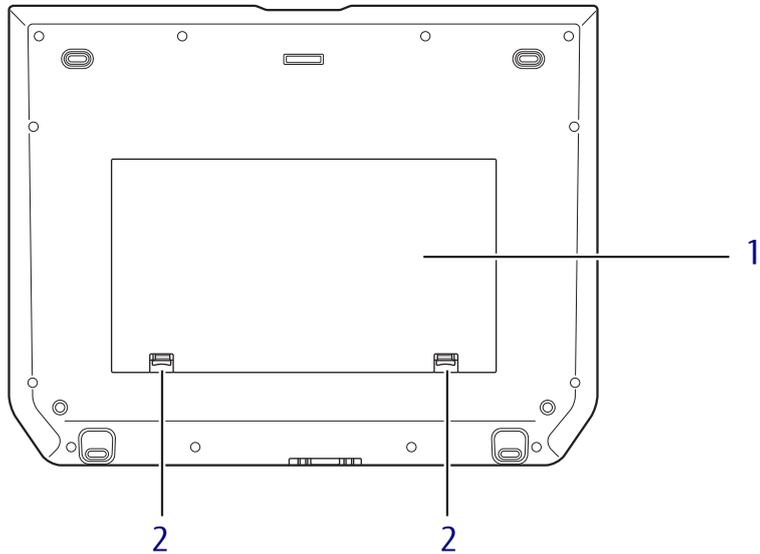
(→P.25)

■ 背面



- 1** 本体接続コネクタ
タブレット本体を接続します。（→P.85）
- 2**  USB 3.0 コネクタ
（→P.97）
- 3**  アナログディスプレイコネクタ
（→P.96）
- 4** **HDMI** HDMI 出力端子
（→P.96）
- 5**  LAN コネクタ
（→P.98）
- 6**  盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防
止用品については、富士通製品情報ページ
内にある「システム構成図」
（[http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/
product/syskou/](http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/product/syskou/)）をご覧ください。
- 7**  DC-IN コネクタ
添付のACアダプタを接続します。

■ 下面 (バッテリー付きキーボード・ドッキングステーションの場合)



1 内蔵バッテリーカバー

内蔵バッテリーカバーを開けると、内蔵バッテリーパック (→P.89) があります。

2 ツメ

内蔵バッテリーカバーを開けるときに使用します。

2

第2章

取り扱い

本タブレットを使用するうえでの基本操作や、本タブレットに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

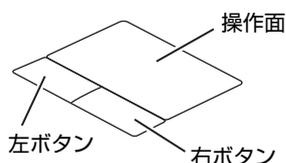
2.1	フラットポイント	25
2.2	マウス	30
2.3	タッチパネル	31
2.4	ディスプレイ	39
2.5	マルチディスプレイ機能	44
2.6	画面表示の回転	46
2.7	サウンド	48
2.8	省電力	52
2.9	バッテリー	57
2.10	通信	60
2.11	ステータスパネルスイッチ	64
2.12	ダイレクト・メモリースロット	69
2.13	暗号化機能付フラッシュメモリディスク	71
2.14	セキュリティチップ（TPM）	72
2.15	防水性能	73

2.1 フラットポイント

対象 キーボード・ドッキングステーション使用時

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



2.1.1 注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

2.1.2 基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をします。

操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- ▶ 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

■ フラットポイントの基本設定を変更する

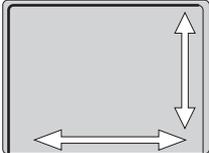
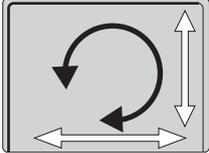
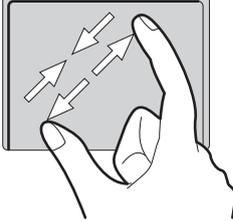
左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更できます。

- 1 「スタート」ボタン →  (設定) → 「デバイス」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「マウス」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「その他のマウスオプション」をタップします。
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.1.3 高度な操作

特定の操作をすることで、スクロールやズームといった機能が使用できます。機能によっては、ご購入時は無効に設定されている場合があります。

設定方法については、「2.1.4 フラットポイントの設定を変更する」(→P.28)をご覧ください。

機能	フラットポイントの操作	
エッジスクロール		<p>右端や下端をなぞると、ウィンドウの表示がスクロールします。</p>
円形スクロール		<p>右端や下端をなぞってウィンドウの表示をスクロールさせた後、指を離さずに円状になぞると、スクロールの動作が続きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時計回り : 下／左にスクロール ・ 反時計回り : 上／右にスクロール
ズーム		<p>2本の指で斜めにつまんだり開いたりする操作をすると、ウィンドウの表示が縮小、拡大します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つまむ : 縮小 ・ 開く : 拡大

2.1.4 フラットポイントの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「マウス」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「その他のマウスオプション」をタップします。
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 「ELAN」タブをクリックします。
- 5 「デバイス」から「Elan スマートパッド」を選択し、「オプション」をクリックします。
「Elan Smart-Pad」ウィンドウが表示されます。必要に応じて設定を変更してください。

POINT

- ▶ 各項目の右側に表示される  (デモンストレーション) をクリックすると、各機能の操作方法が動画で表示されます。
 (ヘルプ) をクリックすると、各機能の説明が表示されます。

●「基本」タブ ・タッピング ・ボタン ・ドラッグ&ドロップ ・エッジスクロール ・コーナータップゾーン ・エッジスワイプ	●「拡張」タブ ・ズーム ・スクロール ・回転	●「追加」タブ ・パーム測定 ・感度 ・タッチパッド無効
---	----------------------------------	---------------------------------------

重要

- ▶ マウスポインターが勝手に動いてしまう場合
手のひらや袖口がフラットポイントに触れると、マウスポインターが動いてしまうことがあります。次の項目でフラットポイントの感度を変更すると改善できる場合があります。
 - ・「追加」タブの「パーム測定」：フラットポイントに触れる手のひらなどを無視できます。
 - 「最大側」に動かすとタッチ感度が下がり、「最少側」に動かすとタッチ感度が上がります。
 - 誤反応を防止するには、「最大側」に動かして調整してください。
 - ・「追加」タブの「感度」：フラットポイントの感度を調整できます。
 - 「高」側に動かすとタッチ感度が上がり、「低」側に動かすとタッチ感度が下がります。
 - 「低」に調整すると誤反応を防止しやすくなりますが、マウスポインターが動きにくくなる場合があります。その場合、フラットポイントに指を強く押し付けるようにすると、マウスポインターを操作できます。
- 6 「OK」をクリックします。

2.1.5 フラットポイントの有効／無効を切り替える

【Fn】 + 【F4】 キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。

無効 → 有効



- ▶ フラットポイントの有効／無効の切り替え状態は、画面上に表示されません。

2.2 マウス

対象 マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2 マウスの基本設定を変更する

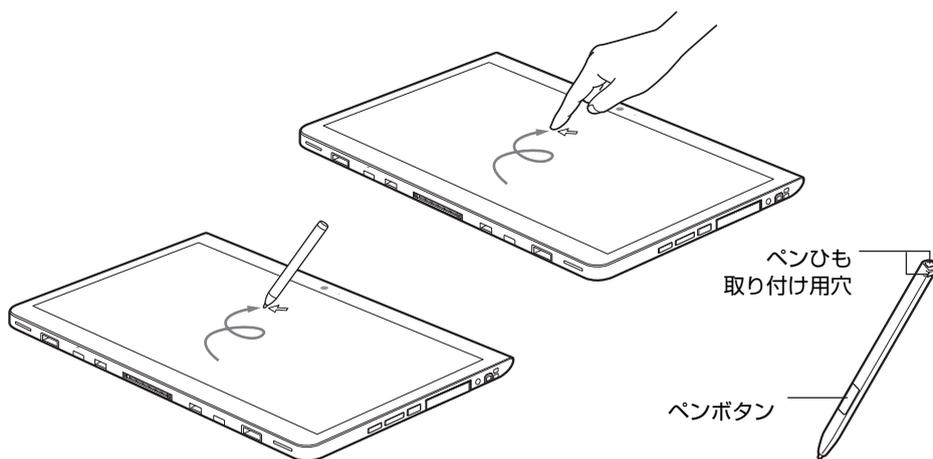
左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「マウス」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「その他のマウスオプション」をタップします。
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.3 タッチパネル

本タブレットのタッチパネルは、タッチ入力と専用ペンでの入力*に対応しています。タッチ入力では指で画面をタッチするだけで、専用ペンでの入力はペンを画面に近づけるだけで、マウスポインターを操作できます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

* 専用ペンでの入力は、カスタムメイドで専用ペンを選択した場合のみ対応しています。



POINT

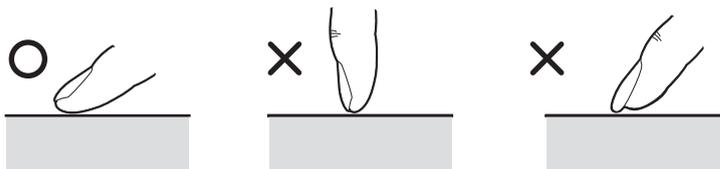
- ▶ 本タブレットのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチする操作ができます。
- ▶ ペンボタンを押しながらタップすると消しゴムの機能が使用できます。ただし、アプリによっては使用できない場合があります。

2.3.1 注意事項

- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面は指紋が付きにくい加工が施されています。このため、液晶ディスプレイ（タッチパネル）を下にして置くと、滑りやすくなりますので、ご注意ください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面をこすると帯電する場合がありますので、ご注意ください。
- 次のようなときに、画面にムラが発生する場合があります。
 - ・ 表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力を加えたとき
 - ・ タブレット本体の側面や裏面を押したり、強い圧力を加えたりしたとき
- 結露による水滴が液晶ディスプレイ（タッチパネル）に付着している状態で電源を入れると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。水滴を拭き取ってから電源を入れてください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪い場合や、タッチ機能に対応していない場合があります。

■ 指による操作

- 画面を強く押さないでください。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。

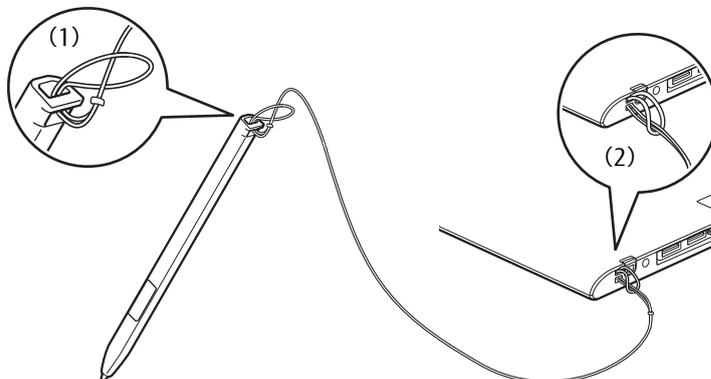


- 同時にペンで操作したり、ペンを手に持って操作したりしないでください。

■ ペンによる操作

- 力を入れて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインターを操作できます。
- 必ず添付のペンで操作してください。
- 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合、一時的にペンが使えなくなることがあります。ペンをいったん画面から放すと、その後は使えるようになります。
- ペン先に強い衝撃を与えないでください。破損の原因となります。
- ペンで画面を押すと、ペン先の周囲に影が発生する場合がありますが、故障ではありません。

- ペンの紛失を防ぐために、必ず添付のペンひもでペンとタブレット本体をつないでください。
ペンひもは、必ず（1）ペン側（2）タブレット本体側の順に取り付けてください。

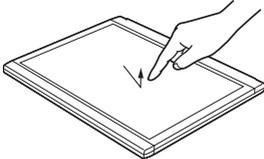
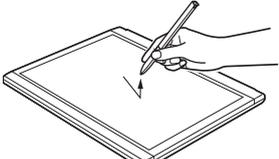
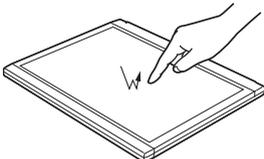
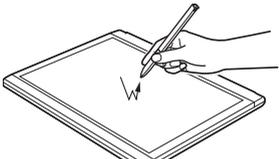
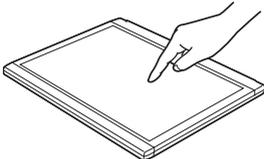
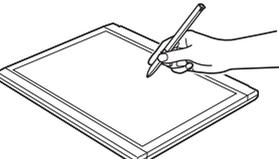
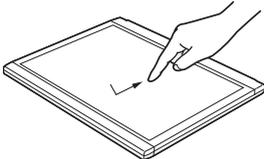
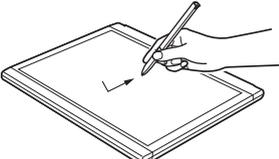


- ペンを破損したり紛失したりしたときは、本タブレットに対応しているペンをご購入ください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。
- ペンを使用しないときは、ペンホルダーに戻してください。

2.3.2 基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、指またはペン先で操作します。

マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

機能	指の操作	ペンの操作
タップ	画面を1回軽くたたきます。 	画面を1回押して離します。 
右タップ	画面を押し、画面に枠が表示されてから指を離します。	画面を長押しして離します。
ダブルタップ	画面を素早く2回連続して軽くたたきます。 	画面を素早く2回連続で押して離します。 
ポイント	画面に軽く触れます。 	画面に近づけるか軽く触れます。 
ドラッグ	画面に軽く押しつけながらなぞります。 	画面に軽く押しつけながらなぞります。 

2.3.3 文字を入力する

キーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ キーボード」を使用します。

■ 注意事項

- Windowsにサインインしていない場合は「タッチ キーボード」は使用できません。

■ 「タッチ キーボード」を使う

「タッチ キーボード」では、手書きパッドおよびタッチ キーボードによる文字の入力ができます。

「タッチ キーボード」の表示は、テキスト入力領域をタップします。

POINT

- ▶ 「タッチ キーボード」が表示されない場合は、次の操作を行ってください。
 1. デスクトップ画面のタスクバーを右タップします。
 2. 「タッチキーボードボタンを表示」をタップします。
タスクバーに「キーボード」のアイコンが表示されます。
 3. 「キーボード」のアイコンをタップします。
画面に「タッチ キーボード」が表示されます。

2.3.4 キャリブレーション

キャリブレーションとは、画面上で実際にタップした位置とタブレットが「タップされた」と認識する位置とを一致させるための作業です。入力位置がずれてきた場合にはキャリブレーションを行ってください。

POINT

- ▶ キャリブレーションを行うときに、調整ポイントが言語バーの下に隠れる場合があります。言語バーを最小化しておくことをお勧めします。

■ 指によるキャリブレーション

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」の順にタップします。「タブレット PC設定」が表示されます。
- 3 「画面」タブの「調整」をタップします。
- 4 「タッチ入力」をタップします。
- 5 画面の「+」マークの交点を正確に指でタップします。「+」マークが次の調整ポイントに移動します。

POINT

- ▶ 指の皮膚の部分でタップしてください。つめや手袋をした指での操作はできません。

- 6 同様に「+」マークを順番にタップします。
- 7 「はい」をタップします。

POINT

- ▶ キャリブレーションを行ってずれが生じてしまった場合は、次の手順でご購入時の設定に戻すことができます。
 1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
 2. 「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」の順にタップします。「タブレット PC設定」が表示されます。
 3. 「画面」タブで、「リセット」をタップします。ご購入時の設定に戻ります。

■ ペンによるキャリブレーション

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「タブレット PC設定」の順にタップします。「タブレット PC設定」が表示されます。
- 3 「画面」タブの「調整」をタップします。
- 4 「ペン入力」をタップします。

- 5 画面の「+」マークの交点を正確にペンでタップします。
「+」マークが次の調整ポイントに移動します。
- 6 同様に「+」マークを順番にタップします。
- 7 「OK」をタップします。

 **POINT**

- ▶ 「タブレットPC設定」の「画面」タブにある「リセット」をタップしてもリセットはできません。

2.3.5 タッチパネルの設定を変更する

ペンやペンボタンの機能は、「ペントブレットのプロパティ」で設定します。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「ペントブレットのプロパティ」の順にタップします。
「ペントブレットのプロパティ」が表示されます。
- 3 「ペン」タブをタップし、設定を変更します。

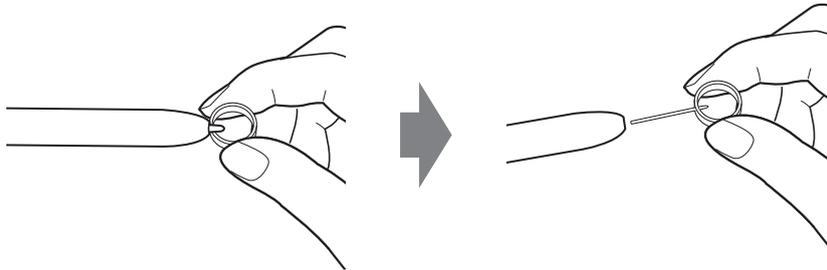
2.3.6 ペン先を交換する

ペン先が破損したり、滑りが悪くなったりしたときは、次の手順に従って添付の新しいペン先と交換してください。

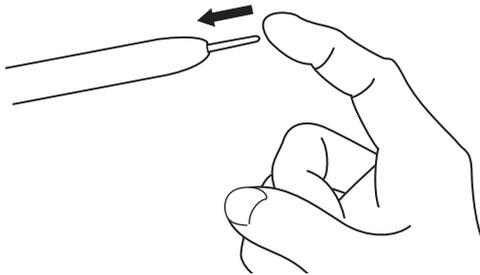
重要

- ▶ ペン先が曲がるとペン先が常に押された状態になり、誤動作することがあります。この場合は新しいペン先と交換してください。

- 1 添付のクリップでペン先をはさみ、ペン本体から外れるまでまっすぐ引き抜きます。



- 2 新しいペン先をペン本体に差し込みます。
ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。



2.4 ディスプレイ

ここでは、本タブレットの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.44）をご覧ください。

2.4.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.4.2 明るさを調整する

本タブレットの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。自動調整の機能が有効の場合、手動での調整はできません。

■ 自動的に調整する

ご購入時は、明るさを自動的に調整する機能が有効（ON）に設定されています。この機能の有効（ON）／無効（OFF）の切り替えは次の手順で行います。

- 1 ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「画面の明るさ自動調整」ボタンをタップします。
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

重要

- ▶ 照度センサーが周囲の明るさを検知します。照度センサーをテープやシールなどでふさがないようにください。

■ 手動で調整する

スライダーで変更する

- 1 「スタート」ボタン →  (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をタップします。
- 3 画面右側のメニューで「明るさレベルの調整」のスライダーを左右に動かします。
スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- ▶ アクションセンター（→P.8）でも明るさを調整できます。
タイルをタップすることにより、明るさのレベルが変わります。

キーボードで明るさを変更する

対象 キーボード・ドッキングステーション使用時

明るくする	【Fn】 + 【F7】 キーを押す
暗くする	【Fn】 + 【F6】 キーを押す

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリー駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「 「電源オプション」で変更する」（→P.41）をご覧ください。

「Windows モビリティセンター」で変更する

- 1 「Windows モビリティセンター」（→P.8）を起動します。
- 2 「ディスプレイの明るさ」のスライダーを左右に動かします。

明るさの設定は、現在選択されている電源プランの現在の電源状態（「バッテリー駆動」または「電源に接続」）に対して行われます。それ以外の状態の明るさの設定を変更するには、「 「電源オプション」で変更する」（→P.41）をご覧ください。

□ 「電源オプション」 で変更する

現在選択されていない電源プランや、現在と異なる電源状態（「バッテリー駆動」または「電源に接続」）の明るさの設定は、「電源オプション」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「電源の追加設定」をタップします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
- 5 明るさを変更し、「変更の保存」をタップします。

2.4.3 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、発色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 デスクトップで右タップし、「インテル® グラフィックスの設定」をタップします。
「インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル」が表示されます。
- 2 「ディスプレイ」アイコンをタップします。
- 3 「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。
設定可能な値は、「5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.119）をご覧ください。
- 4 「適用」をタップします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待つてください。変更前の設定に戻ります。

2.4.4 拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

- 1 デスクトップで右タップし、「**インテル® グラフィックスの設定**」をタップします。
「**インテル® HDグラフィックス・コントロール・パネル**」が表示されます。
- 2 「**ディスプレイ**」アイコンをタップします。
- 3 「**スケーリング**」を設定します。
 - ・ **縦横比を保持する**
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
 - ・ **全画面のスケールにする**
画面がディスプレイ全体に拡大されます。
 - ・ **画像を中央揃えにする**
画面は拡大されずに中央に表示されます。
 - ・ **ディスプレイ・スケーリングを保持する**
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

- 4 「**適用**」をタップします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.5 ディスプレイ省電テクノロジー

「ディスプレイ省電テクノロジー」は、見た目の画質を維持したままバックライトの省電力を行い、バッテリー駆動時間を延ばす機能です。

■ 注意事項

- バッテリー駆動時のみ動作します。
ご購入時は次のように設定されています。
 - ・ディスプレイ省電テクノロジー：「オン」
 - ・レベル：「最長バッテリー駆動時間」
- ディスプレイ省電テクノロジーが動作しているときは、次のように表示される場合がありますが、故障ではありません。
 - ・表示している画像を切り替えたときに画面の明るさや色調が徐々に変更される。
 - ・画像のグラデーション部分に段差が見える。

■ ディスプレイ省電テクノロジーを設定する

- 1 デスクトップで右タップし、「**インテル® グラフィックスの設定**」をタップします。
「**インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル**」が表示されます。
- 2 「**電源**」アイコンをタップします。
- 3 画面左側のメニューで「**バッテリー駆動**」をタップします。
- 4 「**ディスプレイ省電テクノロジー**」を設定します。
 - ・動作させる場合は、「**有効**」をタップし、動作レベルのバーを設定します。
バーを左に設定するほど画質が優先され、バーを右に設定するほどバッテリー駆動時間が優先される設定になります。
 - ・動作させない場合は、「**無効**」をタップするか、「**最高画質**」に設定します。
- 5 「**適用**」をタップします。
「**適用**」をタップすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
この場合は、画面の指示に従って操作してください。
- 6 画面右上の「**閉じる**」をタップして、画面を閉じます。

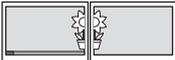
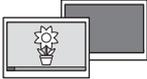
2.5 マルチディスプレイ機能

本タブレットに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.6.2 ディスプレイコネクタ」（→P.96）をご覧ください。

2.5.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

2.5.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本タブレットの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。Windowsが起動するまでの間は、BIOSセットアップの設定が有効になります。起動設定は、『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する

- 1 デスクトップで右タップし、「**インテル® グラフィックスの設定**」をタップします。
「**インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル**」が表示されます。
- 2 「**ディスプレイ**」アイコンをタップします。
- 3 画面左側のメニューで「**マルチ・ディスプレイ**」をタップします。
- 4 「**ディスプレイ・モードの選択**」を設定します。
 - ・シングル表示にする場合、「**シングル・ディスプレイ**」を選択します。
 - ・クローン表示にする場合、「**クローン・ディスプレイ**」を選択します。
 - ・拡張デスクトップにする場合、「**拡張デスクトップ**」を選択します。必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。
- 5 「**アクティブ・ディスプレイの選択**」を選択します。
 - ・接続されているディスプレイの名前が表示されており、タップして別のディスプレイの名前を選択することで、順番を変更できます。
 - ・一番上がプライマリディスプレイです。
- 6 「**適用**」をタップします。
確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

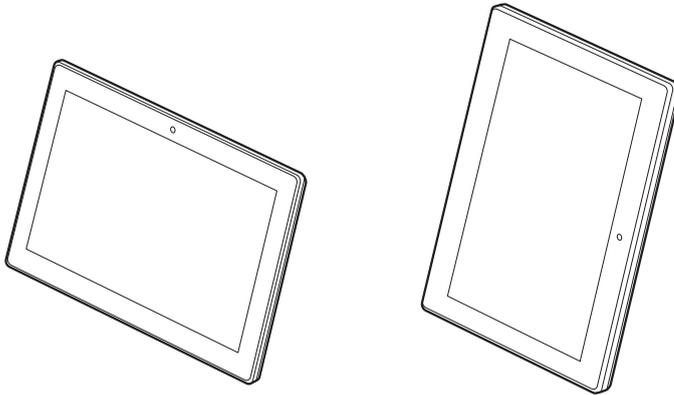
重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。
- 7 必要に応じて「**解像度**」、「**リフレッシュ・レート**」を設定します。
 1. 画面左側のメニューで「**一般設定**」をタップします。
 2. 「**ディスプレイの選択**」から設定を変更するディスプレイを選択します。
 3. 「**解像度**」、「**リフレッシュ・レート**」の設定方法は「2.4.3 解像度を変更する」（→P.41）をご覧ください。

設定可能な値は、「5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度」（→P.119）をご覧ください。

2.6 画面表示の回転

本タブレットは横向きでも縦向きでも操作できます。画面表示の向きを手動で変更したり（→P.46）、タブレット本体の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます（→P.47）。



2.6.1 手動で画面表示の向きを変える

タブレット本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→ （設定）→ 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をタップします。
- 3 画面右側の「向き」で変更したい向きを選択します。

選択メニュー	横	縦	横（反対向き）	縦（反対向き）
画面表示の向き				

- 4 「適用する」をタップします。
「ディスプレイの設定を維持しますか？」と表示されます。
- 5 「変更の維持」をタップします。

2.6.2 状態が変わったときの動作を設定する

次のようなときに自動的に本タブレットの画面表示の設定が変更されるようにできます。

- タブレット本体を傾けたとき
- タブレット本体をキーボード・ドッキングステーションまたはクレードルに取り付けたとき
- タブレット本体をキーボード・ドッキングステーションまたはクレードルから取り外したとき

■ ステータスパネルスイッチで設定を変更する

タブレット本体を傾けたときに、傾けた向きに応じて自動的に画面表示の向きが変更されるように設定できます。

1 ショートカットボタンを押します。

「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

2 「自動回転」ボタンをタップします。

ボタンを押すたびに、デスクトップ画面左上部に「自動回転オフ」「自動回転オン」と表示されます。タブレット本体を傾けたときの画面の自動回転のオン／オフが切り替わります。

POINT

- ▶ キーボード・ドッキングステーションまたはクレードルを接続している場合、自動回転はオフになり、オン／オフは切り替えられません。

2.7 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。

オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.6.4 オーディオ端子」（→P.98）をご覧ください。

2.7.1 全体の再生音量を調節する

タブレット本体のスピーカーや、本タブレットに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

■ タブレット本体

ボリュームダウン／ボリュームアップボタンで変更する

- 1 ボリュームダウンボタン、またはボリュームアップボタンを押します。
画面左上部に音量を示すインジケータが表示されます。

通知領域アイコンで変更する

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（) をタップします。
- 2 スライダーで音量を調節します。

■ キーボード

対象 キーボード・ドッキングステーション使用時

上げる	【Fn】 + 【F9】 キーを押す
下げる	【Fn】 + 【F8】 キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】 + 【F3】 キーを押す

画面左上部に音量を示すインジケータが表示されます。

POINT

- ▶ デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（) をタップして表示される「ミキサー」で調節することもできます。

2.7.2 ソフトウェアごとの再生音量を調節する

ソフトウェアごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するソフトウェアを起動します。
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン (🔊) を右タップし、「音量ミキサーを開く」をタップします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量を調節します。

2.7.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」(→P.50)、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」(→P.50)をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.6.4 オーディオ端子」(→P.98)
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン (🔊) を右タップし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。
- 3 音量を調節したい機器を右タップし、「プロパティ」をタップします。
- 4 「レベル」タブをタップします。
- 5 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をタップします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
スピーカー	Realtek HD Audio output	タブレット本体のスピーカーや本タブレットに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
	マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の再生音量（マイク入力設定時）
	ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の再生音量（ライン入力設定時）
	Line Out	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から出力される音の再生音量（ライン出力設定時）
[ディスプレイ名] 注1	インテル(R) ディスプレイ用 オーディオ HDMI 1	HDMI出力端子に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量
[ディスプレイ名] 注1	インテル(R) ディスプレイ用 オーディオ HDMI 1	microHDMI出力端子に接続されたディスプレイから出力される音の再生音量

注1：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器	項目	説明
マイク	マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量（マイク入力設定時）
	マイクブースト	マイクブーストのレベル（マイク入力設定時）
ライン入力	ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子から入力される音の録音音量（ライン入力設定時）

2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1 オーディオ端子に機器を接続します（→P.98）。
- 2 デスクトップ画面右下の通知領域にある「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン（）をダブルタップします。
「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 3 ウィンドウ右にある機能を切り替えたい端子のアイコンをダブルタップします。
機能を選択するウィンドウが表示されます。
- 4 機能を選択し、「OK」をタップします。

2.7.5 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコン（）を右タップし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をタップします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 2 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をタップします。
- 3 「OK」をタップします。

2.8 省電力

ここでは、タブレットを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.8.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しずつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではフラッシュメモリディスクにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す ^{注1}	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.55)
メニューから選択する	次の操作で選択したメニューの動作になります。 1. 「スタート」ボタン→  (電源) の順にタップし、メニューを選択します。
一定時間操作しない	スリープ状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.55)
バッテリー残量が少なくなる	休止状態になります。 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.55)

注1：電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本タブレットの電源が切れてしまいます。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
USBキーボードや USBマウスを操作する ^{注1}	無効に設定されています。 「■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する」(→P.54)
Wake up on LAN (WoL) 機能 ^{注2}	無効に設定されています。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.53)

注1：休止状態からはレジュームしません。

注2：クレードル、またはLAN変換アダプタに接続している場合に利用できます。

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

対象 クレードル、またはLAN変換アダプタ使用時

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本タブレットを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、省電力状態からレジュームするための設定について説明します。

電源オフ状態から起動する機能については、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」－「Wake up on LANを有効にする」をご覧ください。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
- 2 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 3 画面左側のメニューで「バージョン情報」をタップします。
- 4 画面右側の関連設定の「デバイスマネージャー」をタップします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 5 「ネットワークアダプター」をダブルタップします。
- 6 次のデバイスをダブルタップします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-LMまたは、Intel(R) Ethernet Connection I219-V
- 7 「電源の管理」タブをタップします。
- 8 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
 - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

POINT

- ▶ マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

9 「OK」をタップします。

■ USBデバイスによるレジュームの設定を変更する

USBキーボードやUSBマウスを操作してスリープ状態からレジュームする設定は、次の手順で変更します。

- 1 「Windowsモビリティセンター」（→P.8）を起動します。
- 2 「スリープ状態からの復帰」に表示されている現在の設定を確認し、必要に応じて「切り替える」をタップします。

2.8.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてタブレット本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、タブレット本体の電源を切ります。

Windowsを終了する

- 1 「スタート」ボタン→（電源）の順にタップします。
- 2 「シャットダウン」をタップします。

完全に電源を切る

重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でタブレットの電源を切ってください。
 - ・ BIOS セットアップを起動する
 - ・ 診断プログラムを使用する
 - ・ フラッシュメモリディスクデータ消去

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「更新とセキュリティ」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「回復」をタップします。
- 3 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をタップします。
- 4 「PCの電源を切る」をタップします。

2.8.3 本タブレットの節電機能

本タブレットには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるタブレットの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	タブレットの状態		
	電源オン	スリープ状態	休止状態／電源オフ
省電力設定（→P.55） タブレットの消費電力を低減する。	○	—	—
ステータスパネルスイッチ（→P.64） タブレットの消費電力を低減する。	○	—	—

2.8.4 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約できます。

■ 電源プランを切り替える

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「電源の追加設定」をタップします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 お使いになる電源プランをタップします。

POINT

- ▶ 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をタップし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「電源の追加設定」をタップします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
- 5 「詳細な電源設定の変更」をタップします。

6 リストから項目を選択し、設定を変更します。

 **POINT**

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

7 「OK」をタップします。

2.9 バッテリー

ここでは、バッテリーを使用して本タブレットを使用する方法や注意事項について説明しています。

キーボード・ドッキングステーションに搭載されているバッテリーについては、「3.3 キーボード・ドッキングステーション」（→P.83）をご覧ください。

バッテリーの充電時間や駆動時間など、バッテリーの仕様については「5.1 本体仕様」（→P.103）をご覧ください。

2.9.1 注意事項

■ バッテリーで運用するとき

- 本タブレットの使用中にバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリーの残量に注意してお使いください。バッテリーの残量を確認するには、「2.9.3 バッテリーの残量を確認する」（→P.58）をご覧ください。
- 本タブレットの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリーの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本タブレットを省電力モードにすることにより、バッテリー駆動時間を長くすることができます。ただし、モードを切り替える前の状態によっては、バッテリー駆動時間が長くない場合もあります。モードの切り替え方法については、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.64）をご覧ください。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリー駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力が低下します。

■ 寿命について

- バッテリーは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリー駆動時間が短くなります。バッテリーの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリーの寿命です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- タブレット本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは劣化します。

2.9.2 バッテリーを充電する

- 1 タブレット本体にACアダプタを接続します。
充電が始まります。バッテリーの充電状態は、バッテリー充電ランプ（→P.14）で確認できます。

バッテリー充電ランプ	バッテリーの充電状態
オレンジ色	充電中
消灯	・ 充電完了 ・ ACアダプタが接続されていない

POINT

- ▶ バッテリーを保護するため、バッテリーの残量が90%以上の場合は充電は始まりません。バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

2.9.3 バッテリーの残量を確認する

バッテリーの残量は、デスクトップ画面右下の通知領域にある「電源」アイコン（）をタップすることで確認できます。

なお、表示されるバッテリーの残量は、バッテリーの特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により実際のバッテリーの残量とは異なる場合があります。

POINT

- ▶ より詳しいバッテリーの状態は「バッテリーユーティリティ」で確認できます。詳しくは、「2.9.4 バッテリーの状態を確認する」（→P.59）をご覧ください。

■ 「バッテリーが不足しています」というメッセージが表示されたら

バッテリーの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 本タブレットを休止状態にする
「■ 省電力状態にする」（→P.52）
- 作業を終了して本タブレットの電源を切る
「2.8.2 電源を切る」（→P.54）

ご購入時は、バッテリーの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.55）をご覧ください。

2.9.4 バッテリーの状態を確認する

バッテリーの情報や消耗状態の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

■ バッテリーの情報を確認する

- 1** 「スタート」ボタン→「FUJITSU - バッテリーユーティリティ」→「バッテリーユーティリティ」の順にタップします。
- 2** 「バッテリーの情報」をタップします。
「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

2.10 通信

ここでは本タブレットの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.103）をご覧ください。

POINT

- ▶ 本タブレットには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
 1. 「スタート」ボタン→「Plugfree NETWORK」→「使用場所管理の使い方」および「ネットワーク診断の使い方」の順にタップします。

2.10.1 有線LAN

対象 キーボード・ドッキングステーション、クレードル使用時

重要

- ・キーボード・ドッキングステーションまたは有線LANでネットワークに接続する場合は、タブレット本体とキーボード・ドッキングステーションまたはクレードルを接続してください。

LANケーブルを接続する方法については、「3.6.5 LANコネクタ」（→P.98）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- 本タブレットに搭載されている LAN デバイスには節電機能があります。この機能は、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度を下げることで電力消費を抑えるものです。
ご購入時の設定ではこの機能は有効に設定されていますが、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。これにより問題がある場合は、「■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する」（→P.61）をご覧ください。
 - ・ LAN デバイスの設定で、「リンク速度とデュプレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき（ご購入時の設定）
 - ・ 本タブレットを、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているとき

■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する

LANデバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
- 2 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 3 画面左側のメニューで「バージョン情報」をタップします。
- 4 画面右側の関連設定の「デバイスマネージャー」をタップします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 5 「ネットワークアダプター」をダブルタップします。
- 6 次のデバイスをダブルタップします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-LM
- 7 「詳細設定」タブをタップします。
- 8 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をタップし、「値」で「オン（有効）」または「オフ（無効）」を選択します。
- 9 「OK」をタップします。

2.10.2 無線LAN

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。

無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

また、無線LANの仕様については、「5.4 無線LAN」（→P.122）をご覧ください。

本タブレットは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マーク

 および5.2／5.3GHz帯の屋外使用についての注意文を画面に表示できます。

表示の操作方法は、『製品ガイド（共通編）』の「付録3 認定および準拠について」をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

- 1 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「バージョン情報」をタップします。
- 3 画面右側の関連設定の「デバイスマネージャー」をタップします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルタップします。
本タブレットに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

2.10.3 無線WAN

対象 無線WANモデル

nanoSIMカードを取り付けることにより、高速パケット通信が可能になります。
nanoSIMカードを取り付ける方法については、「3.4 nanoSIMカード」（→P.91）をご覧ください。
無線WANについては、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.10.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。
また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「5.1 本体仕様」（→P.103）をご覧ください。

2.10.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。
電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ ステータスパネルスイッチ

ステータスパネルスイッチで、電波の発信／停止を切り替えます。

- 1 ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ワイヤレスオフモード」ボタンをタップします。
ボタンをタップするたびに、ON／OFFが切り替わります。

POINT

- ▶ 無線デバイスの発信／停止を個別に切り替えることもできます。詳しくは、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.64）をご覧ください。

■ Windowsの機能

Windowsの機能で、無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えることもできます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「ネットワークとインターネット」の順にタップします。
- 2 画面左側のメニューで「機内モード」をタップします。
- 3 画面右側の「機内モード」または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。

「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

重要

- ▶ 機内モードを「オフ」にすると、ワイヤレス通信ランプ（→P.14）が点灯します。
- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

POINT

- ▶ Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
 1. 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にタップします。
 2. 画面左側のメニューで「Bluetooth」をタップします。
 3. 画面右側のメニューで設定を切り替えます。
 - ・「オン」：電波を発信する
 - ・「オフ」：電波を停止する

2.11 ステータスパネルスイッチ

画面上のボタンを操作してモードを切り替えるだけで、画面の明るさやCPUのパフォーマンスなどを一括で変更し、タブレットを使用する状況に最適なモードに変更することができる機能です。

2.11.1 注意事項

- CPUパフォーマンスを次の設定にしていると動画の再生時にコマ落ちが発生する場合があります。
 - ・低
 - ・中このような場合には、「各デバイスの状態の切り替え」で「CPUパフォーマンス」を次の設定にしてください。
 - ・高
 - ・「モード切り替え設定」で、CPUパフォーマンスのチェックを外す（→P.67）
- 各デバイスの状態を「ON」から「OFF」に切り替える場合、切り替え前にそのデバイスの使用を中止し、接続または挿入されているデバイスをすべて取り外してから切り替えてください。デバイスを使用中に切り替えると、デバイスを停止できない場合があります。また、各デバイスの状態を「OFF」から「ON」に切り替える場合は、切り替え後に各デバイスをタブレットに装着してください。
- Windowsへサインインした直後は、各デバイスの状態を切り替えると、切り替えに失敗する場合があります。各デバイスの状態の切り替えは、Windowsへサインインした後、しばらくしてから実行してください。

2.11.2 ステータスパネルスイッチを起動する

- 1 ショートカットボタンを押します。
「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 次の操作でも起動できます。
 1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - ステータスパネルスイッチ」→「ステータスパネルスイッチ」の順にタップします。

2.11.3 ステータスパネルスイッチでモードを切り替える

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え」から使用したいモードのボタンをタップします。
選択したモードに切り替わります。



設定モード	
プレゼンテーションモード	タブレットを使ってプレゼンテーションなどを行うのに適したモードです。
クレードルモード	本体をクレードルに取り付けて使用するときのモードです。 ご購入時の設定では、クレードルに本体を取り付けると自動的にクレードルモードが「ON」になり、クレードルから本体を取り外すと自動的にクレードルモードが「OFF」になります。
省電力モード	画面の明るさやCPUのパフォーマンスを下げることで、タブレットの消費電力を抑えることができるモードです。
ワイヤレスオフモード	無線WAN、無線LAN やBluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を停止するモードです。

POINT

- ▶ 「各デバイスの状態の切り替え」では、それぞれの機能のボタンをタップすると、個別に状態を変更できます。ただし、「ワイヤレスオフモード」が「ON」の場合、無線WANの状態の切り替えはできません。
- ▶ 「表示項目変更」をタップすると、「各デバイスの状態の切り替え」に表示する項目を変更できます。
- ▶ 画面の明るさを、省電力モードで設定された画面の明るさよりも暗くしている場合は、省電力モードにしても画面が暗くならない場合があります。

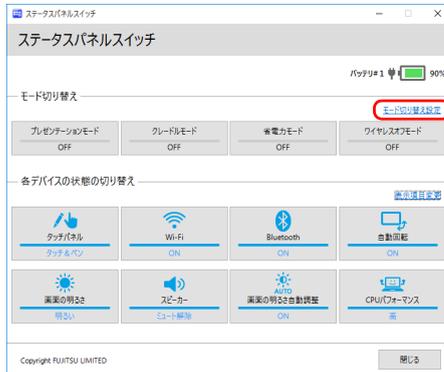
 **重要**

- ▶ 「各デバイスの状態の切り替え」の「タッチパネル」を「ペンのみ」に設定している場合は、指での操作はできません。ペンを紛失してしまうと操作ができなくなってしまいますのでご注意ください。ペンの紛失を防ぐためにも、必ず添付のペンひもでペンとタブレット本体をつないで使用してください。
万が一紛失してしまった場合は、次のいずれかの操作で「タッチ&ペン」に設定し直してください。
 - ・ マウスを接続して操作してください。
 - ・ キーボード・ドッキングステーションをお使いの場合は、フラットポイントで操作してください。
 - ・ ステータスパネルスイッチを起動した後に再度ショートカットボタンを押すと「タッチ&ペン」に切り替えることができます。

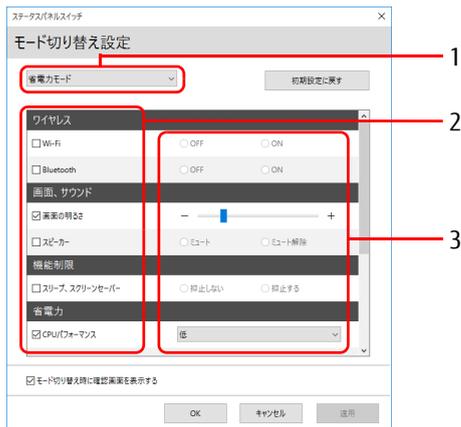
2.11.4 各モードの設定を変更する

各モードで制御するデバイスの選択や、各デバイスの状態を個別に変更できます。

- 1 「ステータスパネルスイッチ」ウィンドウで、「モード切り替え設定」をタップします。



- 2 設定を変更します。
 1. モードを選択します。
 2. 制御するデバイスを選択します。
 3. デバイスの状態や値を設定します。



- 3 「適用」をタップします。
- 4 「OK」をタップします。

2.11.5 ワンタッチキャプチャを利用する

ステータスパネルスイッチの機能のひとつ、ワンタッチキャプチャについて説明します。

重要

- ▶ ワンタッチキャプチャは、ご購入時の状態でお使いになれます。
- ▶ 「ステータスパネルスイッチ」をアンインストールするとお使いになれません。

1 ショートカットボタンを長押しします。

Windows Ink ワークスペースの画面スケッチが起動します。

2.12 ダイレクト・メモリースロット

ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.103）をご覧ください。

2.12.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

2.12.2 使用できるメモリーカード

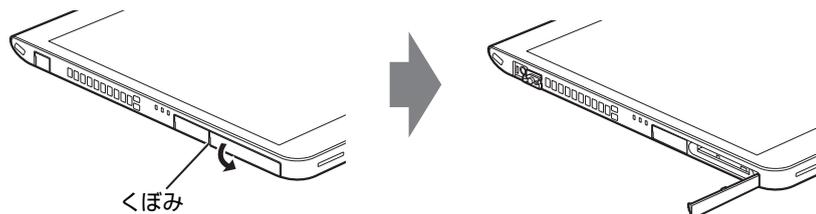
すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SDメモリーカード ^注	microSDカード	○
	microSDHCカード	○
	microSDXCカード	○

注 ・著作権保護機能には対応していません。
・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

2.12.3 メモリーカードをセットする

- くぼみに指をかけ、矢印の方向にカバーを開けます。

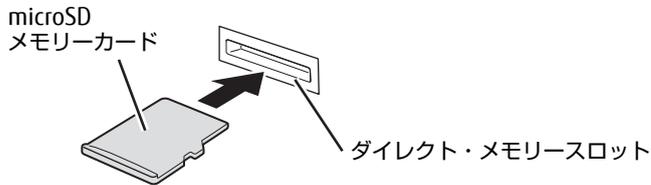


POINT

- ▶ カバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

2 microSDメモリーカードをダイレクト・メモリースロット（→P.14）に差し込みます。

イラストは、タブレット本体の液晶ディスプレイを上にした状態で挿入しています。



POINT

- ▶ メッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをタップし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。

3 カバーを閉じます。

2.12.4 メモリーカードを取り出す

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（）をタップします。

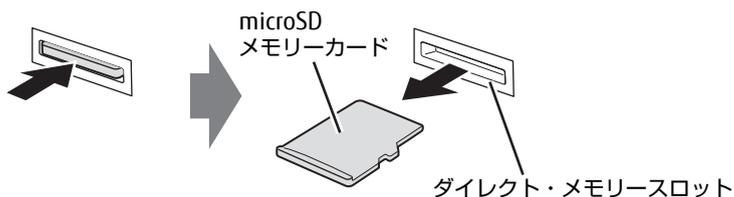
2 取り外すメモリーカードをタップし、表示されるメッセージに従います。

3 ダイレクト・メモリースロットのカバーのくぼみに指をかけ、カバーを開けます。

4 microSDメモリーカードを一度押し、少し出てきたmicroSDメモリーカードを引き抜きます。

重要

- ▶ メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因になります。



5 カバーを閉じます。

2.13 暗号化機能付フラッシュメモリディスク

「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。

BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリディスクへのアクセスはパスワードで管理され、認証されたユーザーのみが復号されたデータを入手できます。

また、本タブレットからフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のタブレットに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」－「BIOSのパスワード機能を使う」をご覧ください。

2.14 セキュリティチップ（TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリディスクに残さないため、フラッシュメモリディスクが盗まれても暗号を解析できません。

2.15 防水性能

対象 防水対応機種

端子カバーとスロットカバーをしっかりと閉じた状態で、IPX5、IPX7、IPX8の防水性能を有しています。

- ・ IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5L／分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、タブレットとしての機能を有することを意味します。
- ・ IPX7とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.0mのところの本タブレットを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときにタブレットとしての機能を有することを意味します。
- ・ IPX8とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.5mのところの本タブレットを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときにタブレットとしての機能を有することを意味します。

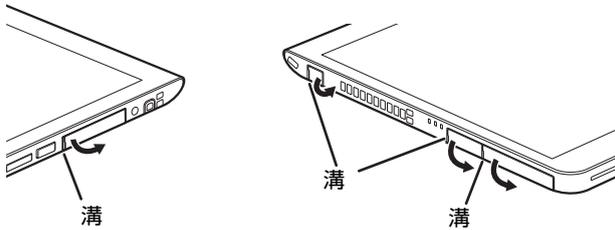
2.15.1 防水性能でできること

- 1時間の雨量が20mm程度の雨の中で、傘をささずに通信ができます。
 - ・ 手が濡れているときやタブレットに水滴がついているときには、端子カバーやスロットカバーの開閉はしないでください。
- 水深1.5mの水の中に沈めることができます。
 - ・ 水中で操作しないでください。
 - ・ 水につけるときは、30分以内としてください。
 - ・ プールの水がかかったり、プールの水に浸けたりした場合は、洗い流して水抜きしてください（→P.76）。
- お風呂場で使用できます。
 - ・ 湯船にはつけないでください。また、お湯の中で使用しないでください。故障の原因となります。万が一、湯船に落としてしまった場合には、すぐに拾って水抜きしてください（→P.76）。
 - ・ 温泉や石けん、洗剤、入浴剤の入った水には絶対につけないでください。万が一、水道水以外が付着してしまった場合は、ただちに洗い流して水抜きしてください（→P.76）。
 - ・ お風呂場では、温度は5℃～35℃、湿度は20%～80%RH、使用時間は2時間以内の範囲でお使いください。
 - ・ 急激な温度変化は結露の原因となります。寒い所から暖かいお風呂などに本タブレットを持ち込むときは、本タブレットが常温になるまで待ってください。
 - ・ 蛇口やシャワーから水やお湯などをかけないでください。
- 洗面器などに張った静水につけて、ゆすりながら汚れを洗い流すことができます。
 - ・ 洗うときは、端子カバーとスロットカバーが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず洗ってください。

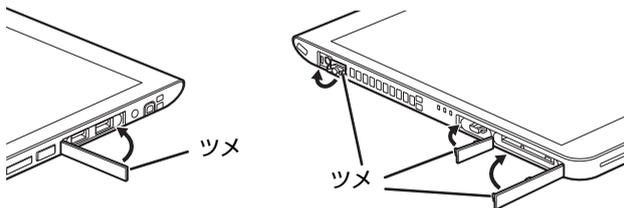
2.15.2 防水性能を維持するために

水の浸入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 常温の水道水以外の液体をかけたり、つけたりしないでください。
- microSDカードの取り付け／取り外し時や外部接続端子を使用するときには、次の図に示す溝に指をかけてすこし引き出し、矢印の方向にカバーを開けてください。



また、microSDカードの取り付け／取り外し後や外部接続端子使用後は、矢印のように動かしてカバーを閉じ、ツメを押し込んでカバーの浮きがないことを確認してください。



- 端子カバーとスロットカバーはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）がはさまると、浸水の原因となります。
- カバーが閉じにくい場合は、カバーの両端を同時に押し込んでください。
- スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水性能の劣化を招くことがあります。
- 端子カバー、スロットカバーのゴムパッキンは防水性能を維持する上で重要な役割を担っています。ゴムパッキンをはがしたり傷付けたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。

POINT

- ▶ 防水性能を維持するため、異常の有無にかかわらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。
部品の交換はタブレットをお預かりして有料にて承ります。「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

2.15.3 防水性能をお使いになるうえでの注意

次のような行為は行わないでください。

- 石けん、洗剤、または入浴剤をつける
- ブラシやスポンジで洗う
- 洗濯機で洗う
- 強すぎる水流を当てる
- 海水につける
- 温泉で使う
- 砂や泥をつける

また、次の注意事項を守って正しくお使いください。

- 付属品は防水性能を有していません。クレードルや専用キーボードにタブレットを差し込んだ状態で動画再生などをする場合、ACアダプタを接続していない状態でも、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りでは使用しないでください。
- 防水性能以上の強い水流（例えば、蛇口やシャワーから肌に当てて痛みを感じるほどの強さの水流）を直接当てないでください。本タブレットはIPX5の防水性能を有していますが、内部に水が入り、感電や電池の腐食などの原因となります。
- 熱湯につけたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 本タブレットを水中で移動させたり、水面に叩きつけたりしないでください。
- 水道水やプールの水につけるときは、30分以内としてください。
- プールで使用するときは、その施設の規則を守って、使用してください。
- 本タブレットは水に浮きません。
- 水滴が付着したまま放置しないでください。電源端子がショートしたり、寒冷地では凍結したりして、故障の原因となります。
- スピーカーに水滴を残さないでください。動作不良となるおそれがあります。
- 端子カバーやスロットカバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。
- 端子カバーやスロットカバーのゴムパッキンが傷付いたり、変形したりした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

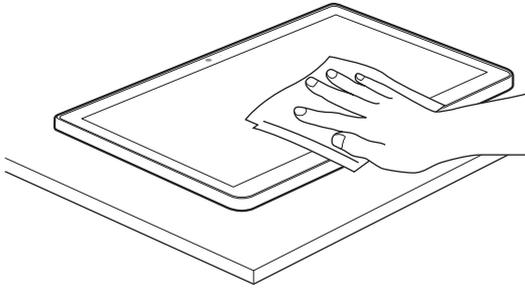
POINT

- ▶ 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

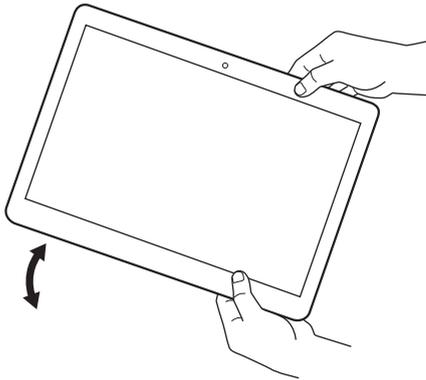
2.15.4 水抜き

本タブレットを水に濡らすと、拭き取れなかった水が後からもれてくることがありますので、下記の手順で水抜きを行ってください。

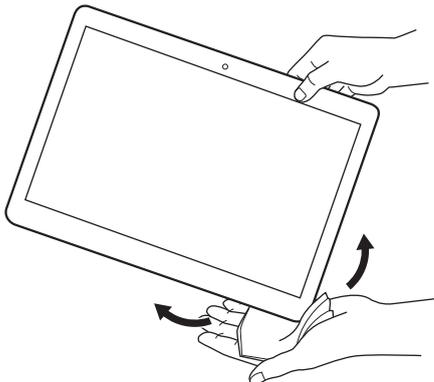
- 1 本タブレットを安定した台などに置き、表面、裏面を乾いた清潔な布などでよく拭き取ってください。



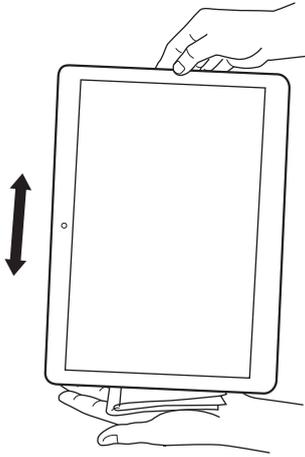
- 2 本タブレットのディスプレイ面を下にして、長い辺を両手でしっかりと持ち、10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。その後、180度持ち替えて同様に10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。



- 3 外周部の隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本タブレットの四隅を各10回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



- 4** スピーカーなどの隙間にたまった水は、乾いた清潔な布などに本タブレットを10回程度振るよう押し当てて拭き取ってください。



- 5** 本タブレットから出てきた水分を乾いた清潔な布などで十分に拭き取り、自然乾燥させてください。
- ・水を拭き取った後に本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。
 - ・隙間にたまった水を綿棒などで直接拭き取らないでください。

2.15.5 充電のときの注意

充電時および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 充電時は、本タブレットが濡れていないか確認してください。本タブレットが濡れている状態では、絶対に充電しないでください。
- 付属品は防水性能を有していません。
- 本タブレットが濡れている場合や水に濡れた後に充電する場合は、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで水を拭き取ってから、付属のクレードルや専用キーボードに差し込んだり、端子カバーを開いたりしてください。
- 端子カバーを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとカバーを閉じてください。なお、外部接続端子からの浸水を防ぐため、クレードルを使用して充電することをお勧めします。
- ACアダプタやクレードル、専用キーボードは、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りや水のかかる場所で使用しないでください。火災や感電の原因となります。
- 濡れた手でACアダプタやクレードル、専用キーボードに触れないでください。感電の原因となります。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に	79
3.2 クレードル	80
3.3 キーボード・ドッキングステーション	83
3.4 nanoSIMカード	91
3.5 アタッチメント/ストラップ	94
3.6 コネクタの接続/取り外し	96

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本タブレットに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付け後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからタブレット本体の電源を入れ、タブレット本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 クレードル

対象 クレードル使用時

タブレット本体にクレードルを取り付けると、クレードルに搭載されているコネクタを使用できるようになります。

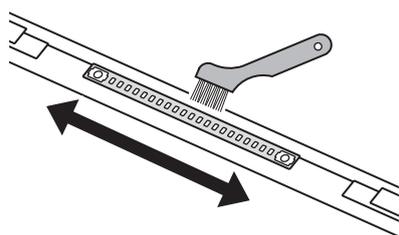
ここでは、クレードルの取り付け、取り外し方法について説明しています。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.79）をお読みになってから作業をしてください。

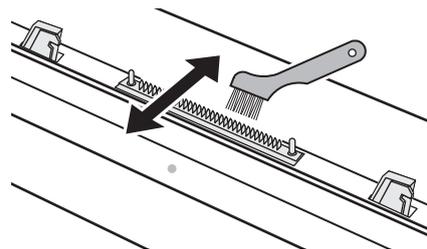
3.2.1 注意事項

- クレードルを取り付けた状態では、本タブレットを持ち運ばないでください。タブレット本体およびクレードルのコネクタの破損の原因となります。
- クレードルのアナログディスプレイコネクタとHDMI出力端子に同時に接続し、クローン表示に設定した場合、アナログ接続、HDMI接続ともに最大解像度は1920×1080となります。
- タブレット本体の接続コネクタ部が汚れていると、クレードルが使用できないことがあります。タブレット本体の接続コネクタ部を、乾いた柔らかい布で拭いてください。
- クレードルをお使いになる場合は、必ずクレードルのDC-INコネクタ（→P.20）に、タブレット本体に添付のACアダプタを接続してください。
- タブレット本体とクレードルの接続コネクタ部が汚れていると、クレードルが使用できないことがあります。その場合はタブレット本体とクレードルの接続コネクタ部を、添付のブラシで清掃してから再度接続してください。

またクレードル側の接続コネクタ部は指で触れないでください。汚れが付着する原因となります。



ドッキングコネクタ
(タブレット本体)



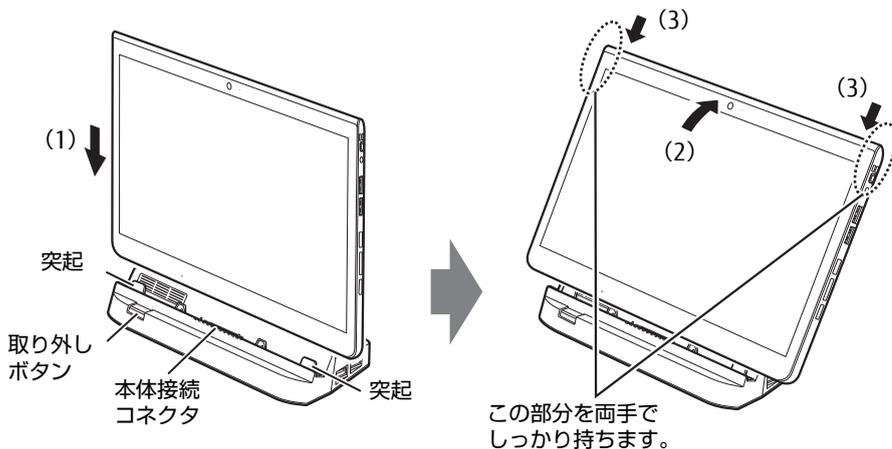
本体接続コネクタ
(クレードル)

3.2.2 クレードルを取り付ける

- 1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.96）。
- 2 クレードルの取り外しボタンを押して、赤いマークを確認します。
- 3 クレードルとタブレット本体を接続します。
 1. タブレット本体の穴と、クレードルの突起（2ヶ所）の位置を合わせて、タブレット本体をまっすぐ下ろします。
 2. タブレット本体をクレードル側にやや倒すようにします。
 3. イラストの点線部に両手を添えて矢印の方向に動かし、「カチッ」と音がするまでしっかりと取り付けます。
挿入のしかたによっては、「カチッカチッ」と2回音がする場合があります。
 4. 接続後タブレット本体を軽く引っ張り、きちんとロックされているか確認します。
ロックされていない場合は、取り外しボタンを押してタブレット本体をいったん取り外してから、もう一度取り付けてください。

重要

- ▶ クレードルとタブレット本体が平行になるように取り付けてください。
- ▶ 接続したクレードルとタブレット本体を取り外して、もう一度取り付ける場合は、2～3秒おいてから取り付けてください。
- ▶ 固くて水平な場所に置いてください。
ソファの上など、柔らかい場所に置くと本体が傾いてしまうことがあります。
- ▶ 周囲に物を置かないでください。
周りに物があると、正しくセットできないことがあります。

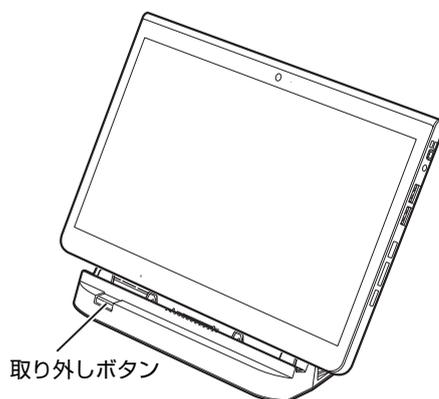


3.2.3 クレードルを取り外す

- 1 クレードルのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。
- 2 タブレット本体をクレードルから取り外します。
本体に手を添えて、クレードルの取り外しボタンを押し、クレードルに沿ってタブレット本体を持ち上げます。

 **重要**

- ▶ クレードルの取り外しボタンを押す前に、タブレット本体を持ち上げないでください。タブレット本体を持ち上げていると、クレードルの取り外しボタンが押せない場合があります。



3.3 キーボード・ドッキングステーション

対象 バッテリ付きキーボード・ドッキングステーション／
キーボード・ドッキングステーション（バッテリなし）使用時

タブレット本体とキーボード・ドッキングステーションを接続することで、ノートパソコンのようにキーボードとフラットポイントで操作できます。

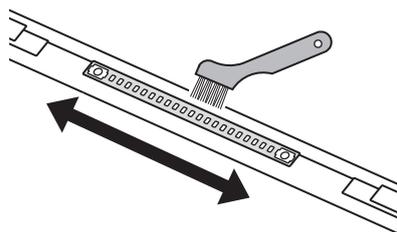
ここでは、キーボード・ドッキングステーションの取り付け、取り外し方法および、バッテリ付きキーボード・ドッキングステーションのバッテリーを使用して本タブレットを使用する方法や注意事項について説明しています。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.79）をお読みになってから作業をしてください。

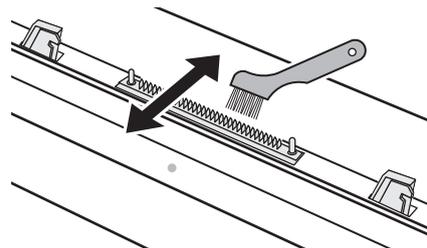
また、バッテリーの充電時間や駆動時間など、バッテリーの仕様については「5.1 本体仕様」（→P.103）をご覧ください。

3.3.1 注意事項

- タブレット本体とキーボード・ドッキングステーションの角度によっては、キーボード・ドッキングステーションの手前が浮いたり、後ろに倒れる場合があります。タブレット本体とキーボード・ドッキングステーションは、開きすぎないように注意してお使いください。
- タブレット本体とキーボード・ドッキングステーションの接続コネクタ部が汚れていると、キーボード・ドッキングステーションが使用できないことがあります。その場合はタブレット本体とキーボード・ドッキングステーションの接続コネクタ部を、添付のブラシで清掃してから再度接続してください。
またキーボード・ドッキングステーション側の接続コネクタ部は指で触れないでください。汚れが付着する原因となります。



ドッキングコネクタ
(タブレット本体)



本体接続コネクタ
(キーボード・ドッキングステーション)

■ バッテリー付きキーボード・ドッキングステーションの場合

□ バッテリーの取り扱い

- 本キーボード・ドッキングステーションに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>）をご覧ください。
- バッテリーを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリーは使用しないでください。
- バッテリーやキーボード・ドッキングステーションのバッテリーコネクタには触れないでください。
- バッテリーは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本キーボード・ドッキングステーションを使用しないときは、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。キーボード・ドッキングステーションに取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリーが劣化します。

□ バッテリーで運用するとき

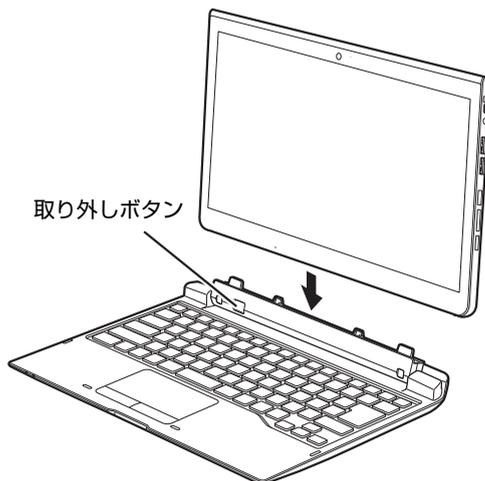
- キーボード・ドッキングステーションを接続してバッテリー運用を行うと、タブレット本体およびキーボード・ドッキングステーションの両バッテリーから電源が供給されます。
- タブレット本体のバッテリー残量が0%になった場合は、タブレット本体にACアダプタを接続して、充電してください。
- バッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリーの残量に注意してお使いください。タブレット本体のバッテリーの残量を確認するには、「2.9.3 バッテリーの残量を確認する」（→P.58）をご覧ください。
- 本タブレットの機能を多用したり負荷の大きいソフトウェアを使用したりすると、多くの電力を消費するためバッテリーの駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
- 本タブレットを省電力モードにすることにより、バッテリー駆動時間を長くすることができます。ただし、モードを切り替える前の状態によっては、バッテリー駆動時間が長くない場合もあります。モードの切り替え方法については、「2.11 ステータスパネルスイッチ」（→P.64）をご覧ください。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリー駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力が低下します。

□ 寿命について

- バッテリーは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下し、バッテリー駆動時間が短くなります。バッテリーの駆動時間が極端に短くなったり、満充電にならなくなったりしたらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換するか、寿命になったバッテリーを取り外してください。
- キーボード・ドッキングステーション本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは劣化します。

3.3.2 キーボード・ドッキングステーションを取り付ける

- 1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.96）。
- 2 キーボード・ドッキングステーションの本体接続コネクタ部を90° に開きます。
- 3 キーボード・ドッキングステーションの取り外しボタンを押して、赤いマークを確認します。
- 4 キーボード・ドッキングステーションとタブレット本体を接続します。
本体接続コネクタと、タブレット本体のドッキングコネクタ（→P.11）の位置を合わせて、タブレット本体をまっすぐ下ろし、「カチッ」と音がするまでしっかりと取り付けます。
挿入のしかたによっては、「カチッカチッ」と2回音がする場合があります。
- 5 接続後タブレット本体を軽く引っ張り、きちんとロックされているか確認します。
ロックされていない場合は、取り外しボタンを押してタブレット本体をいったん取り外してから、もう一度取り付けてください。



重要

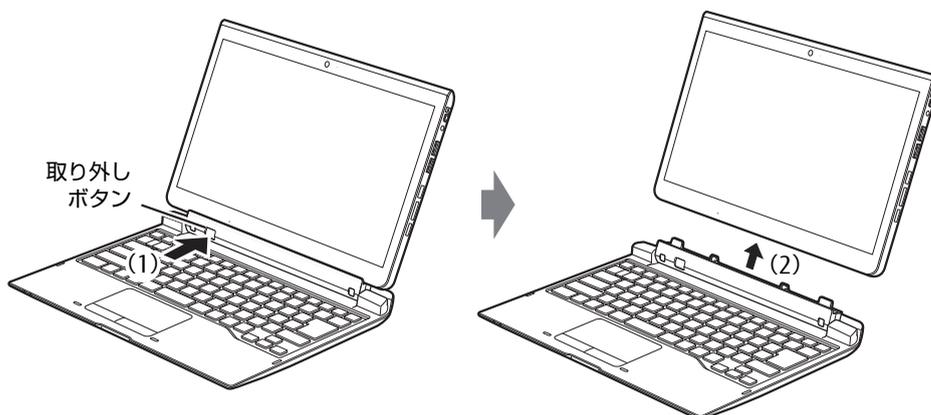
- ▶ 接続したキーボード・ドッキングステーションとタブレット本体を取り外して、もう一度取り付ける場合は、2～3秒おいてから取り付けてください。
- ▶ 専用フォリオカバーやストラップ付カバーを装着しているときは、タブレット本体とキーボード・ドッキングステーションを閉じないでください。
タブレット本体を無理に閉じようとすると、タブレット本体またはキーボード・ドッキングステーションの破損や故障の原因となります。

3.3.3 キーボード・ドッキングステーションを取り外す

- 1 キーボード・ドッキングステーションに接続されている周辺機器の電源を切ります。
- 2 タブレット本体をキーボード・ドッキングステーションから取り外します。
(1) キーボード・ドッキングステーションの取り外しボタンを押して、(2) タブレットを持ち上げます。

重要

- ▶ キーボード・ドッキングステーションの取り外しボタンを押す前に、タブレット本体を持ち上げないでください。タブレット本体を持ち上げていると、キーボード・ドッキングステーションの取り外しボタンが押せない場合があります。
- ▶ キーボード・ドッキングステーションの取り外しは、キーを押さないように注意してください。



3.3.4 キーボード・ドッキングステーションのバッテリーを充電する

対象 バッテリー付きキーボード・ドッキングステーション

■ キーボード・ドッキングステーションのバッテリー充電

- 1 キーボード・ドッキングステーション本体にACアダプタを接続します。
充電が始まります。バッテリーの充電状態は、バッテリー充電ランプ（→P.21）で確認できます。

バッテリー充電ランプ	バッテリーの充電状態
オレンジ色 ^注	充電中
白色	充電完了
消灯	ACアダプタが接続されていない

注：点滅している場合は、バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリーの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリーの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

POINT

- ▶ バッテリーを保護するため、バッテリーの残量が90%以上の場合は充電は始まりません。バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

■ キーボード・ドッキングステーション接続時のバッテリー充電

タブレット本体とキーボード・ドッキングステーションを接続したままで充電できます。

タブレット本体の状態	バッテリーの充電状態
電源オン 電源オフ／省電力状態	タブレット本体およびキーボード・ドッキングステーションのバッテリーを、同時に充電します。

ACアダプタは、タブレット本体側、キーボード・ドッキングステーション側のどちらに接続しても充電できます。

ただし、タブレット本体のバッテリー残量が0%になった場合は、タブレット本体にACアダプタを接続して、充電してください。

重要

- ▶ バッテリー充電中で、キーボード・ドッキングステーション側のバッテリーが90%以上充電されたときに次のことが起こると、バッテリー充電が終了します。
 - ・タブレット本体の電源がオンからオフに切り替わったとき
 - ・タブレット本体の電源がオフからオンに切り替わったとき
 - ・タブレット本体が省電力状態になったとき
 - ・タブレット本体がレジュームしたとき

3.3.5 キーボード・ドッキングステーションのバッテリーの残量を確認する

対象 バッテリー付きキーボード・ドッキングステーション

キーボード・ドッキングステーションのバッテリーの残量は、バッテリー残量ランプ（→P.21）で確認できます。

なお、表示されるバッテリーの残量は、バッテリーの特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により実際のバッテリーの残量とは異なる場合があります。

バッテリー残量ランプ	バッテリーの残量
白色 ^注	100%～50%
オレンジ色 ^注	49%～13%
赤色 ^注	12%以下
消灯	バッテリーが取り付けられていない

注：本タブレットの電源の状態により次のようになります。なお、「充電中」とは、バッテリー充電ランプがオレンジ色に点灯している状態です。

- ・電源オン：点灯
- ・電源オフ／省電力状態（スリープ、休止状態）：点灯（充電中）または消灯（非充電中）

重要

- ▶ 短い間隔で赤色に点滅している場合は、バッテリーが正しく充電されていません。タブレット本体をキーボード・ドッキングステーションから取り外してからバッテリーを取り付け直してください。それでも状態が変わらない場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。

■ バッテリー残量ランプが赤色に点灯したら

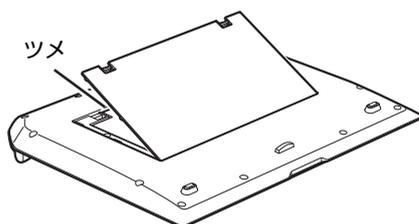
バッテリーの残量はわずかになっています。タブレット本体のバッテリー残量を確認してください（→P.59）。

3.3.6 キーボード・ドッキングステーションのバッテリーを交換する

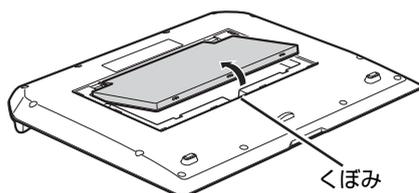
対象 バッテリー付きキーボード・ドッキングステーション

ここでは内蔵バッテリーパックの交換方法について説明します。
交換したバッテリーの処分については、『製品ガイド（共通編）』の「廃棄・リサイクル」をご覧ください。

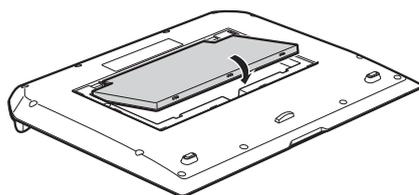
- 1 タブレット本体をキーボード・ドッキングステーションから取り外し、ACアダプタを取り外します。
- 2 キーボード・ドッキングステーションを静かに裏返します。
- 3 内蔵バッテリーカバーのツメ（2ヶ所）を押しながら、内蔵バッテリーカバーを斜めに持ち上げて取り外します。



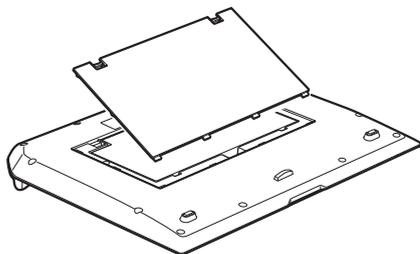
- 4 くぼみに指をかけ、内蔵バッテリーパックを斜め上に持ち上げて取り外します。



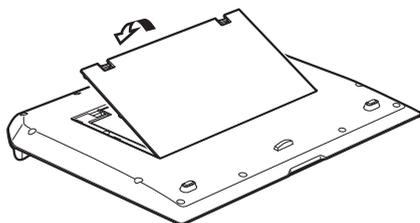
- 5 新しい内蔵バッテリーパックのふちとタブレット本体のふちを合わせ、しっかりとめ込みます。



- 6** 内蔵バッテリーカバーのツメを、タブレット本体のくぼみに合わせます。



- 7** 内蔵バッテリーカバーを、「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じます。



3.4 nanoSIMカード

対象 無線WANモデル

本タブレットのnanoSIMカードスロットにnanoSIMカードをセットすると、無線WANによる通信ができるようになります。

ここでは、nanoSIMカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。無線WANの使い方については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.79）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- nanoSIMカードの表面にテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。

重要

- ▶ nanoSIMカードをセットしたり取り出したりするときは、必ずタブレット本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。電源の切り方については、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。

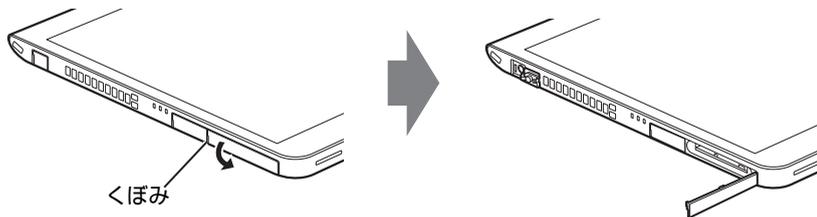
3.4.2 nanoSIMカードをセットする

重要

- ▶ カードトレイの取り扱いについては、充分にご注意ください。
 - ・ nanoSIMカードは、必ずカードトレイにセットして挿入してください。nanoSIMカードを直接タブレット本体に差し込んでも認識できません。また、nanoSIMカードが取り外せなくなるなど、タブレット本体の故障の原因となります。
 - ・ 変形したカードトレイを挿入すると、通常のnanoSIMカードを認識できない場合があります。
 - ・ カードトレイは紛失しないように注意してください。

1 タブレット本体の電源を切ります。

2 くぼみに指をかけ、カードスロットカバーを矢印の方向に開きます。



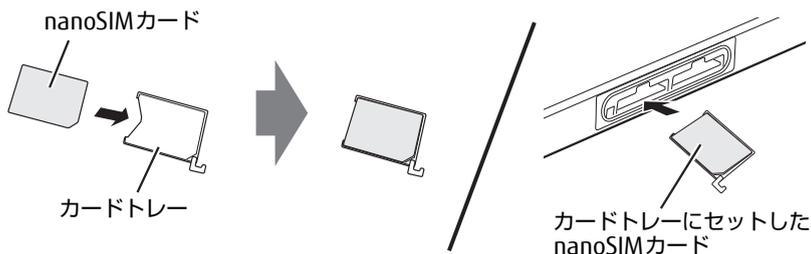
POINT

- ▶ カバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

3 カードトレイのツメをつかみカードトレイを引き出します。

4 nanoSIMカードを図のようにカードトレイにセットし、カードトレイをnanoSIMカードスロットに差し込みます。

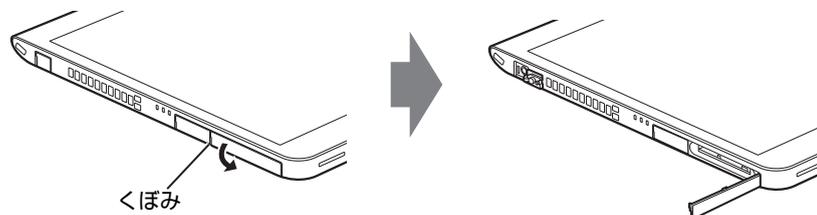
イラストは、タブレット本体の液晶ディスプレイを下にした状態で挿入しています。



5 カードスロットカバーを閉じます。

3.4.3 nanoSIMカードを取り出す

- 1 タブレット本体の電源を切ります。
- 2 くぼみに指をかけ、カードスロットカバーを矢印の方向に開きます。



POINT

- ▶ カバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

- 3 カードトレイのツメをつかみカードトレイを引き出し、nanoSIMカードを取り出します。

重要

- ▶ 取り外したnanoSIMカードは大切に保管してください。

- 4 カードトレイをnanoSIMカードスロットに差し込みます。
- 5 カードスロットカバーを閉じます。

3.5 アタッチメント／ストラップ

対象 スマートカード、VESAマウント搭載機種

タブレット本体とアタッチメント、ハンドストラップ、ショルダーストラップを取り付けることで、タブレットを快適にお使いいただけます。

ここでは、アタッチメントの取り付け方法について説明しています。

ハンドストラップ、ショルダーストラップについては、ハンドストラップ、ショルダーストラップに添付のマニュアルをご覧ください。

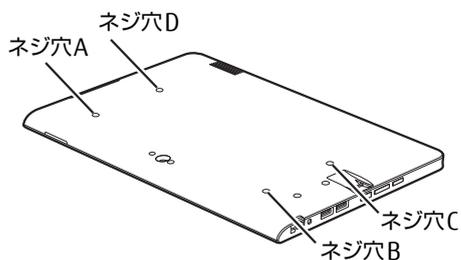
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.79）をお読みになってから作業をしてください。

3.5.1 注意事項

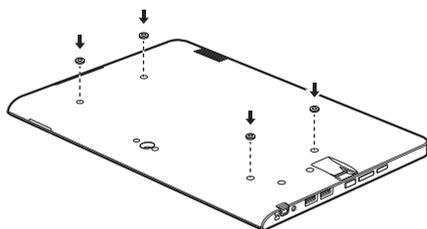
- 必ずタブレット本体の電源を切ってください。電源の切り方については、「2.8.2 電源を切る」（→P.54）をご覧ください。
- 添付のネジは幼児が飲み込むと大変危険です。幼児の手が届かない場所に置いてください。
- ネジをしっかり取り付けていないと、使用中にネジが外れタブレット本体が落下するおそれがあります。
- ネジの取り付けには、寸法の合う工具をお使いください。

3.5.2 アタッチメントを取り付ける

- 1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.96）。
- 2 タブレット本体裏面のネジ穴隠しシート（4ヶ所）をはがします。



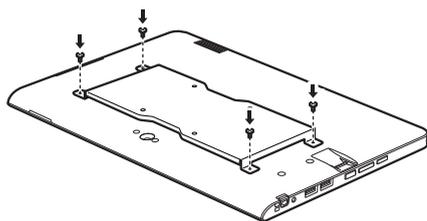
- 3 アタッチメント付属のスペーサーを、ネジ穴（4ヶ所）に合わせて貼り付けます。



- 4 アタッチメントのネジ穴と、タブレット本体ネジ穴を合わせ、アタッチメント付属のネジで固定します。

重要

- ▶ ネジの取り付けは、ネジ穴AからDの順番で取り付けてください。



POINT

- ▶ 本タブレットは、VESAマウント（75mm×75mm）に対応しています。

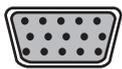
3.6 コネクタの接続／取り外し

ここでは、タブレット本体やクレードルに周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.103）をご覧ください。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.79）をお読みになってから作業をしてください。

3.6.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかつたり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずタブレット本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

3.6.2 ディスプレイコネクタ



アナログディスプレイコネクタ



HDMI出力端子



microHDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。タブレット本体の電源を切ってから接続してください。

■ 接続する

- 1 タブレット本体の電源を切ります。
- 2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
クレードルの次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。
・アナログディスプレイコネクタ
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、タブレット本体の電源を入れます。

■ 取り外す



- ▶ マルチディスプレイ機能（→P.44）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

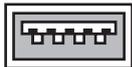
□ アナログディスプレイコネクタ

- 1 タブレット本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
クレードルの場合は、コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

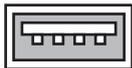
□ HDMI出力端子／microHDMI出力端子

- 1 タブレット本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.6.3 USBコネクタ



USB3.0コネクタ（青色）



USB2.0コネクタ（黒色）

USB対応周辺機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す



- ▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（)をタップします。
 2. 取り外すデバイスをタップし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.6.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- ▶ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

■ 接続する

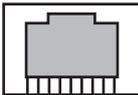
- 1 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.6.5 LANコネクタ

対象 クレードル、キーボード・ドッキングステーション、LAN変換アダプタ使用時



LANケーブルを接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

重要

- ▶ 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンストカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

4

第4章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

4.1 日常のお手入れ	100
-------------------	-----

4.1 日常のお手入れ

タブレット本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまっていきます。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

4.1.1 タブレット本体、クレードル、キーボード・ドッキングステーションの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう十分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

4.1.2 手のひら静脈センサー

対象 手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサーにほこりや汚れが付いたりすると、手のひら静脈認証の精度が低下する可能性があります。手のひら静脈センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

重要

- ▶ 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

4.1.3 液晶ディスプレイ／タッチパネル

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイ／タッチパネルの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイ／タッチパネルが破損するおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・ アルカリ性成分を含んだもの
 - ・ 界面活性剤を含んだもの
 - ・ アルコール成分を含んだもの
 - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・ 研磨剤を含むもの
- ▶ 液晶ディスプレイ／タッチパネル表面を激しくこすると、静電気が発生することがあります。ご注意ください。

5

第5章 仕様

本製品の仕様を記載しています。

5.1 本体仕様	103
5.2 CPU	117
5.3 ディスプレイ	119
5.4 無線LAN	122

5.1 本体仕様

5.1.1 ARROWS Tab Q737/R

無線WANモデルの仕様については「**無線WANモデル**」（→P.106）をご覧ください。

■ 標準モデル／GPSモデル

製品名称		ARROWS Tab Q737/R 標準モデル／GPSモデル	
CPU 注1	名称	インテル® Core™ i7-7600Uプロセッサ	インテル® Core™ i5-7300Uプロセッサ
	動作周波数	2.80GHz (最大3.90GHz注2)	2.60GHz (最大3.50GHz注2)
	コア数／スレッド数	2／4	
	キャッシュメモリ	2次：256KB×2 3次：4MB	2次：256KB×2 3次：3MB
メインメモリ（オンボード）		標準8GB（LPDDR3）	標準4GB（LPDDR3）
メモリスロット		×0（空きメモリスロット×0）	
表示 機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics 620（CPUに内蔵）	
	ビデオメモリ	メインメモリと共用	
	液晶ディスプレイ注3	LEDバックライト付 13.3型ワイド TFTカラー（グレア処理）注4	
	解像度／発色数注5		
	液晶ディスプレイ表示	フルHD（1920×1080ドット／1677万色）	
	外部ディスプレイ表示（本体）	microHDMI：最大4096×2160ドット／最大1677万色	
外部ディスプレイ表示 （クレードル／キーボード・ドッキング グステーション）	アナログ：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット／最大1677万色		
フラッシュメモリディスクドライブ注6		暗号化機能付フラッシュメモリーディスク128GB（シリアルATA）注7	
オーディオ 機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵＋High Definition Audioコーデック	
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）注8 サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）注8 同時録音再生機能	
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート	
	スピーカー	ステレオスピーカー	
	マイク	デジタルマイク内蔵	
Webカメラ		裏面：有効画素数 約500万画素 表面：有効画素数 約200万画素	
ポインティングデバイス注9		タッチパネル（静電容量方式）、スタイラスペン（電磁誘導方式）注10	

製品名称		ARROWS Tab Q737/R 標準モデル／GPSモデル	
通信機能	LAN ^{注11}	1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T ^{注12} 、Wakeup on LAN対応 ^{注13}	
	無線WAN	—	
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a ^注 、IEEE 802.11b ^注 、IEEE 802.11g ^注 、 IEEE 802.11n ^注 、IEEE 802.11ac ^注 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi [®] ^{注16})
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注17}
Bluetoothワイヤレステクノロジー ^{注18}		Bluetooth v4.1 ^注	
インテル [®] vPro [™] テクノロジー／AMT		○／V11.6	
セキュリティ機能			
指紋センサー		スライド方式	
スマートカード ^{注19} ^{注20}		×1（専用スロット）	
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0 ^注	
盗難防止用ロック取り付け穴		あり	
インターフェース	本体		
	microSDメモリーカード ^{注21}		×1スロット
	外部ディスプレイ	microHDMI ^{注22}	×1スロット
	USB ^{注23}		USB3.0 ^注 ^{注24} ×1（右側面） USB2.0 ^注 ^{注25} ×1（右側面）
	nanoSIMカード		—
	オーディオ	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注26}	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
	クレードル／キーボード・ドッキングステーション		×1（専用コネクタ）
	状態表示		LED
	拡張クレードル ^{注27}		
	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
		HDMI ^{注22}	×1
	USB ^{注23}		USB3.0 ^注 ^{注24} ×3（右側面×2、背面×1）
	LAN		RJ-45×1
オーディオ	ヘッドホン・ヘッドセット兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω	

製品名称		ARROWS Tab Q737/R 標準モデル／GPSモデル	
インターフェース	キーボード・ドッキングステーション ^{注27}		
	キーボード	日本語キーボード (キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠)	
	ポインティングデバイス	フラットポイント	
	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
		HDMI ^{注22}	×1
	USB ^{注23}	USB3.0準拠 ^{注24} ×3 (背面)	
	LAN	RJ-45×1	
	バッテリー (バッテリー付きキーボード・ドッキングステーションのみ)	リチウムイオン45Wh	
状態表示	LED		
電源供給方式	ACアダプタ ^{注28}	入力AC100V～240V、出力DC19V (3.42A)	
	バッテリー	リチウムポリマー 46Wh (取り外し不可)	
バッテリー駆動時間 ^{注29} (JEITA測定法2.0 ^{注30})		約11.0時間 (本体のみ) / 約16.7時間 (本体+バッテリー付きキーボード・ドッキングステーション)	
バッテリー充電時間 ^{注31}		約2.5時間	
消費電力 ^{注32} (最大時)		約4W (約65W)	
外形寸法 (突起部含まず)		W317.0×D208.0×H12.7mm (本体のみ) W317.0×D208.0×H15.8mm (背面カバー取替時)	
質量	標準モデル	約990g (本体のみ)	
	GPSモデル	約1005g (本体のみ)	
電波障害対策		VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/) にある、製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム ^{注33}		対応 ^{注34}	
温湿度条件		温度5～35℃ / 湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60℃ / 湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)	
防水・防塵 ^{注35}		IPX5 / IPX7 / IPX8 / IP5X	
プレインストールOS ^{注36}		Windows 10 Pro (64ビット版)	
サポートOS ^{注36} ^{注37}		Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016 (64ビット版)、 Windows 10 Enterprise (64ビット版)、 Windows 10 Pro (64ビット版)	

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

■ 無線WANモデル

製品名称		ARROWS Tab Q737/R 無線WANモデル		
CPU 注1	名称	インテル® Core™ i7-7600U プロセッサ	インテル® Core™ i5-7300U プロセッサ	
	動作周波数	2.80GHz (最大3.90GHz注2)	2.60GHz (最大3.50GHz注2)	
	コア数/スレッド数	2/4		
	キャッシュメモリ	2次: 256KB×2 3次: 4MB	2次: 256KB×2 3次: 3MB	
メインメモリ (オンボード)		標準8GB (LPDDR3)	標準4GB (LPDDR3)	
メモリスロット		×0 (空きメモリスロット×0)		
表示 機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics 620 (CPUに内蔵)		
	ビデオメモリ	メインメモリと共用		
	液晶ディスプレイ注3	LEDバックライト付 13.3型ワイド TFT カラー (グレア処理) 注4		
	解像度/発色数注5			
	液晶ディスプレイ表示	フルHD (1920×1080 ドット/1677万色)		
	外部ディスプレイ表示 (本体)	microHDMI: 最大4096×2160 ドット/最大1677万色		
	外部ディスプレイ表示 (クレードル/キーボード・ドッキング ステーション)	アナログ: 最大1920×1200 ドット/最大1677万色 HDMI: 最大4096×2160 ドット/最大1677万色		
フラッシュメモリーディスクドライブ注6		暗号化機能付フラッシュメモリーディスク128GB (シリアルATA) 注7		
オー ディ オ 機 能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック		
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数: 最大192kHz、24ビットステレオ (再生時) 注8 サンプリング周波数: 最大96kHz、16ビットステレオ (録音時) 注8 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート		
	スピーカー	ステレオスピーカー		
	マイク	デジタルマイク内蔵		
Webカメラ		裏面: 有効画素数 約500万画素 表面: 有効画素数 約200万画素		
ポインティングデバイス注9		タッチパネル (静電容量方式)、スタイラスペン (電磁誘導方式) 注10		
通 信 機 能	LAN注11	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T準拠注12、Wake up on LAN対応注13		
	無線WAN注14	Xi対応 (LTE) 受信時最大100Mbps、送信時最大50Mbps注15		
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 (5GHz帯チャンネル: W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠) 注16	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注17	
Bluetoothワイヤレステクノロジー注18		Bluetooth v4.1準拠		
インテル® vPro™テクノロジー/AMT		○/V11.6		

製品名称		ARROWS Tab Q737/R 無線WANモデル	
セキュリティ機能			
指紋センサー		スライド方式	
スマートカード ^{注19} ^{注20}		×1（専用スロット）	
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0準拠	
盗難防止用ロック取り付け穴		あり	
本体			
microSDメモリーカード ^{注21}		×1スロット	
外部ディスプレイ	microHDMI ^{注22}	×1スロット	
USB ^{注23}		USB3.0準拠 ^{注24} ×1（右側面） USB2.0準拠 ^{注25} ×1（右側面）	
nanoSIMカード		×1スロット	
オーディオ	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注26}	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1	
クレードル／キーボード・ドッキングステーション		×1（専用コネクタ）	
状態表示		LED	
拡張クレードル ^{注27}			
インターフェース	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
		HDMI ^{注22}	×1
	USB ^{注23}		USB3.0準拠 ^{注24} ×3（右側面×2、背面×1）
	LAN		RJ-45×1
	オーディオ	ヘッドホン・ヘッドセット兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω
	キーボード・ドッキングステーション ^{注27}		
キーボード		日本語キーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠）	
ポインティングデバイス		フラットポイント	
外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
	HDMI ^{注22}	×1	
USB ^{注23}		USB3.0準拠 ^{注24} ×3（背面）	
LAN		RJ-45×1	
バッテリー（バッテリー付きキーボード・ドッキングステーションのみ）		リチウムイオン45Wh	
状態表示		LED	
電源供給方式	ACアダプタ ^{注28}	入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A）	
	バッテリー	リチウムポリマー 46Wh（取り外し不可）	
バッテリー駆動時間 ^{注29} （JEITA測定法2.0 ^{注30} ）		約11.0時間（本体のみ）／ 約16.7時間（本体+バッテリー付きキーボード・ドッキングステーション）	
バッテリー充電時間 ^{注31}		約2.5時間	

製品名称	ARROWS Tab Q737/R 無線WANモデル
消費電力 ^{注32} （最大時）	約4W（約65W）
外形寸法（突起部含まず）	W317.0×D208.0×H12.7mm（本体のみ） W317.0×D208.0×H15.8mm（背面カバー取替時）
質量	約1005g（本体のみ）
電波障害対策	VCCIクラスB
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	富士通製品情報ページ（ http://www.fmworld.net/biz/ ）にある、製品情報の仕様をご覧ください。
国際エネルギースタープログラム ^{注33}	対応 ^{注34}
温湿度条件	温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
防水・防塵 ^{注35}	IPX5／IPX7／IPX8／IP5X
プレインストールOS ^{注36}	Windows 10 Pro（64ビット版）
サポートOS ^{注36} ^{注37}	Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016（64ビット版）、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1： ・ ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・ 本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」（→P.117）をご覧ください。
- 注2： インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.117）動作時。
- 注3： ・ 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示する全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・ 製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・ 本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・ 表示する条件によってはムラおよび微小なほ点が目立つことがあります。
- 注4： カスタムメイドの選択によっては、「アンチグレア処理ディスプレイ」が搭載されています。
- 注5： ・ グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・ 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注6： 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注7： カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（シリアルATA）
- 注8： 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注9： カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。
- 注10： カスタムメイドの選択によって添付されています。
- 注11： カスタムメイドで拡張クレードルまたはキーボード・ドッキングステーションを選択した場合。
- 注12： ・ 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・ 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンストカテゴリ5（カテゴリ5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注13： ・ 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wakeup on LAN機能は使用できません。
・ Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・ 本タブレットの有線LANインターフェース
・ 本タブレットの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本タブレットが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWakeup on LAN機能が動作しない場合があります。
・ Wakeup on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。Wakeup on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・ 省電力状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.53）をご覧ください。
・ 電源オフ状態からのWakeup on LAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wakeup on LANを有効にする」をご覧ください。
- 注14： 無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS II ユニバーサルコネク」の契約、またはNTTドコモとの回線契約およびプロバイダーとの契約が必要です。
- 注15： Xiエリア外であってもFOMAのエリア内であれば受信時最大14Mbps、送信時最大5.7Mbpsとなります。また、ベストエフォート方式による提供となります。これら通信速度とは、技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。エリアの詳細については、NTTドコモのホームページ（<http://www.nttdocomo.co.jp/support/area/index.html>）をご覧ください。
- 注16： Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注17： IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注18： すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注19： カスタムメイドの選択によって搭載されています。
- 注20： BIOSパスワードをスマートカード認証に置き換えることはできません。
- 注21： ・ すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・ 著作権保護機能には対応していません。
・ ご使用可能なmicroSDカードは最大2GB、microSDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GBまでとなります。
- 注22： ・ HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・ 市販のテレビとの連動機能はありません。
- 注23： すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注24： USB3.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 注25： USB2.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 注26：ご購入時はヘッドホン出力に設定されています。設定を変更するには「2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.51）をご覧ください。
- 注27：カスタムメイドの選択によって添付されています。
- 注28：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると故障する場合があります。
- 注29：バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
- 注30：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver. 2.0）」（<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14>）に基づいて測定。
- 注31：電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなる場合があります。
- 注32：・当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリディスク容量、無線WAN／無線LAN／Bluetoothワイヤレステクノロジー OFF、LCD輝度最小）。
・電源オフ時の消費電力（満充電時）は、約0.2W以下です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注33：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなおフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
- 注34：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



5.1.2 ARROWS Tab Q737/R-PV

無線WANモデルの仕様については「■ 無線WANモデル」（→P.113）をご覧ください。

■ 静脈対応モデル／GPSモデル

製品名称		ARROWS Tab Q737/R-PV 静脈対応モデル／GPSモデル		
CPU 注1	名称	インテル® Core™ i7-7600U プロセッサ	インテル® Core™ i5-7300U プロセッサ	
	動作周波数	2.80GHz (最大3.90GHz注2)	2.60GHz (最大3.50GHz注2)	
	コア数／スレッド数	2／4		
	キャッシュメモリ	2次：256KB×2 3次：4MB	2次：256KB×2 3次：3MB	
メインメモリ（オンボード）		標準8GB（LPDDR3）	標準4GB（LPDDR3）	
メモリスロット		×0（空きメモリスロット×0）		
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics 620（CPUに内蔵）		
	ビデオメモリ	メインメモリと共用		
	液晶ディスプレイ注3	LEDバックライト付 13.3型ワイドTFTカラー（グレア処理）注4		
	解像度／発色数注5			
	液晶ディスプレイ表示	フルHD（1920×1080ドット／1677万色）		
	外部ディスプレイ表示（本体）	microHDMI：最大4096×2160ドット／最大1677万色		
	外部ディスプレイ表示（クレードル）	アナログ：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット／最大1677万色		
フラッシュメモリアドライブ注6		暗号化機能付フラッシュメモリアドライブ128GB（シリアルATA）注7		
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック		
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）注8 サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）注8 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート		
	スピーカー	ステレオスピーカー		
	マイク	デジタルマイク内蔵		
Webカメラ		裏面：有効画素数 約500万画素 表面：有効画素数 約200万画素		
ポインティングデバイス注9		タッチパネル（静電容量方式）、スタイラスペン（電磁誘導方式）注10		
通信機能	LAN注11	1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠注12、Wake up on LAN対応注13		
	無線WAN	—		
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠) 注16	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注17	
Bluetoothワイヤレステクノロジー注18		Bluetooth v4.1準拠		
インテル® vPro™テクノロジー／AMT		○／V11.6		

製品名称		ARROWS Tab Q737/R-PV 静脈対応モデル／GPSモデル
セキュリティ機能		
手のひら静脈センサー		あり
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0準拠
盗難防止用ロック取り付け穴		あり
本体		
microSDメモリーカード ^{注19}		×1スロット
外部ディスプレイ	microHDMI ^{注20}	×1スロット
USB ^{注21}		USB3.0準拠 ^{注22} ×1（右側面） USB2.0準拠 ^{注23} ×1（右側面）
nanoSIMカード		—
オーディオ	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注24}	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
クレードル		×1（専用コネクタ）
状態表示		LED
拡張クレードル ^{注25}		
外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
	HDMI ^{注20}	×1
USB ^{注21}		USB3.0準拠 ^{注22} ×3（右側面×2、背面×1）
LAN		RJ-45×1
オーディオ	ヘッドホン・ヘッドセット兼用	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω
電源供給方式		ACアダプタ ^{注26} バッテリー
ACアダプタ ^{注26}		入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A）
バッテリー		リチウムポリマー 46Wh（取り外し不可）
バッテリー駆動時間 ^{注27} （JEITA測定法2.0 ^{注28} ）		約11.0時間
バッテリー充電時間 ^{注29}		約2.5時間
消費電力 ^{注30} （最大時）		約4W（約65W）
外形寸法（突起部含まず）		W346.5×D206.0×H12.7mm
質量	標準モデル	約990g（本体のみ）
	GPSモデル	約1005g（本体のみ）
電波障害対策		VCCIクラスB
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ（ http://www.fmworld.net/biz/ ）にある、製品情報の仕様をご覧ください。
国際エネルギースタープログラム ^{注31}		対応 ^{注32}
温湿度条件		温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストールOS ^{注33}		Windows 10 Pro（64ビット版）
サポートOS ^{注33} ^{注34}		Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016（64ビット版）、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

■ 無線WANモデル

製品名称		ARROWS Tab Q737/R-PV 無線WANモデル		
CPU 注1	名称	インテル® Core™ i7-7600U プロセッサ	インテル® Core™ i5-7300U プロセッサ	
	動作周波数	2.80GHz (最大3.90GHz注2)	2.60GHz (最大3.50GHz注2)	
	コア数/スレッド数	2/4		
	キャッシュメモリ	2次：256KB×2 3次：4MB	2次：256KB×2 3次：3MB	
メインメモリ（オンボード）		標準8GB（LPDDR3）	標準4GB（LPDDR3）	
メモリスロット		×0（空きメモリスロット×0）		
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics 620（CPUに内蔵）		
	ビデオメモリ	メインメモリと共用		
	液晶ディスプレイ注3	LEDバックライト付 13.3型ワイド TFTカラー（グレア処理）注4		
	解像度/発色数注5			
	液晶ディスプレイ表示	フルHD（1920×1080ドット/1677万色）		
	外部ディスプレイ表示（本体）	microHDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色		
外部ディスプレイ表示（クレードル）	アナログ：最大1920×1200ドット/最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色			
フラッシュメモリディスクドライブ注6		暗号化機能付フラッシュメモリーディスク128GB（シリアルATA）注7		
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック		
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）注8 サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）注8 同時録音再生機能		
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート		
	スピーカー	ステレオスピーカー		
	マイク	デジタルマイク内蔵		
Webカメラ		裏面：有効画素数 約500万画素 表面：有効画素数 約200万画素		
ポインティングデバイス注9		タッチパネル（静電容量方式）、スタイラスペン（電磁誘導方式）注10		
通信機能	LAN注11	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠注12、Wake up on LAN 対応注13		
	無線WAN注14	Xi対応（LTE）受信時最大100Mbps、送信時最大50Mbps注15		
	無線LAN	規格	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、 IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠) 注16	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注17	
Bluetoothワイヤレステクノロジー注18		Bluetooth v4.1 準拠		
インテル® vPro™テクノロジー/AMT		○/V11.6		
セキュリティ機能				
手のひら静脈センサー		あり		
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0 準拠		
盗難防止用ロック取り付け穴		あり		

製品名称		ARROWS Tab Q737/R-PV 無線WANモデル	
インターフェース	本体		
	microSDメモリーカード ^{注19}		×1スロット
	外部ディスプレイ	microHDMI ^{注20}	×1スロット
	USB ^{注21}		USB3.0準拠 ^{注22} ×1（右側面） USB2.0準拠 ^{注23} ×1（右側面）
	nanoSIMカード		×1スロット
	オーディオ	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注24}	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1
	クレードル		×1（専用コネクタ）
	状態表示		LED
	拡張クレードル ^{注25}		
	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1
		HDMI ^{注20}	×1
	USB ^{注21}		USB3.0準拠 ^{注22} ×3（右側面×2、背面×1）
	LAN		RJ-45×1
	オーディオ	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 出力1mW以上、負荷インピーダンス32Ω	
ヘッドホン・ヘッドセット兼用			
電源供給方式	ACアダプタ ^{注26}	入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A）	
	バッテリー	リチウムポリマー 46Wh（取り外し不可）	
バッテリー駆動時間 ^{注27} （JEITA測定法2.0 ^{注28} ）		約11.0時間	
バッテリー充電時間 ^{注29}		約2.5時間	
消費電力 ^{注30} （最大時）		約4W（約65W）	
外形寸法（突起部含まず）		W346.5×D206.0×H12.7mm	
質量		約1005g（本体のみ）	
電波障害対策		VCCIクラスB	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ（ http://www.fmworld.net/biz/ ）にある、製品情報の仕様をご覧ください。	
国際エネルギースタープログラム ^{注31}		対応 ^{注32}	
温湿度条件		温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストールOS ^{注33}		Windows 10 Pro（64ビット版）	
サポートOS ^{注33} ^{注34}		Windows 10 Enterprise LTSB Upgrade 2016（64ビット版）、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）	

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1： ・ ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・ 本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」（→P.117）をご覧ください。
- 注2： インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.117）動作時。
- 注3： ・ 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示する全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・ 製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・ 本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・ 表示する条件によってはムラおよび微小なほ点が目立つことがあります。
- 注4： カスタムメイドの選択によっては、「アンチグレア処理ディスプレイ」が搭載されています。
- 注5： ・ グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・ 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注6： 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注7： カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（シリアルATA）
- 注8： 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注9： カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。
- 注10： カスタムメイドの選択によって添付されています。
- 注11： カスタムメイドで拡張クレードルを選択した場合。
- 注12： ・ 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・ 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注13： ・ 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake up on LAN機能は使用できません。
・ Wake up on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
・ 本タブレットの有線LANインターフェース
・ 本タブレットの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本タブレットが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake up on LAN機能が動作しない場合があります。
・ Wake up on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。Wake up on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・ 省電力状態からのWake up on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.53）をご覧ください。
・ 電源オフ状態からのWake up on LAN機能を使用するには、「製品ガイド（共通編）」の「2章 BIOS」—「Wake up on LANを有効にする」をご覧ください。
- 注14： 無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS II ユニバーサルコネク」の契約、またはNTTドコモとの回線契約およびプロバイダーとの契約が必要です。
- 注15： Xiエリア外であってもFOMAのエリア内であれば受信時最大14Mbps、送信時最大5.7Mbpsとなります。また、ベストエフォート方式による提供となります。これら通信速度とは、技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。エリアの詳細については、NTTドコモのホームページ（<http://www.nttdocomo.co.jp/support/area/index.html>）をご覧ください。
- 注16： Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注17： IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注18： すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注19： ・ すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
・ 著作権保護機能には対応していません。
・ ご使用可能なmicroSDカードは最大2GB、microSDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GBまでとなります。
- 注20： ・ HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・ 市販のテレビとの連動機能はありません。
- 注21： すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注22： USB3.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 注23： USB2.0準拠のポートについて、外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 注24： ご購入時はヘッドホン出力に設定されています。設定を変更するには「2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.51）をご覧ください。
- 注25： カスタムメイドの選択によって添付されています。

- 注26：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続されると故障する場合があります。
- 注27：バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
- 注28：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver. 2.0）」（<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=84&ca=14>）に基づいて測定。
- 注29：電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
- 注30：
 - ・ 当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリディスク容量、無線WAN／無線LAN／Bluetoothワイヤレステクノロジー OFF、LCD輝度最小）。
 - ・ 電源オフ時の消費電力（満充電時）は、約0.2W以下です。
 - ・ 電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注31：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなおフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
- 注32：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



注33：日本語版。

- 注34：
 - ・ 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
 - ・ Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。

5.2 CPU

本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル®ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル®ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- ▶ OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル®ハイパースレディング・テクノロジー

インテル®ハイパースレディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- ▶ OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル®バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル®バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ 拡張版Intel SpeedStep®テクノロジー（EIST）

拡張版Intel SpeedStep®テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- ▶ この機能により本タブレットの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」（→P.55）をご覧ください。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファー・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。

データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[ソフトウェア名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をタップし、表示される対処方法に従ってください。

5.3 ディスプレイ

5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

タブレット本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのシングル表示の場合、拡張デスクトップ表示の場合に、本タブレットが出力可能な解像度です。

外部ディスプレイの場合、お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- ▶ お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ タブレット本体の液晶ディスプレイ

解像度	対応
1024×768	○
1280×720	○
1280×800	○
1280×1024	○
1360×768	○
1366×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1680×1050	○
1920×1080	○

■ 外部ディスプレイ（アナログ接続／HDMI接続）

解像度	リフレッシュレート (Hz)	対応
1024×768	60	○
	70 ^{注1}	
	75 ^{注1}	
	85 ^{注1}	
1280×720	60	○
1280×800	60	○
1280×1024	60	○
	75 ^{注1}	
	85 ^{注1}	
1360×768	60	○
1366×768	60	○
1440×900	60	○
1600×900	60	○
1600×1200	60	○
1680×1050	60	○
1920×1080	60	○
1920×1200	60	○
1920×1440 ^{注2}	60	○
2560×1440 ^{注2}	60	○
2560×1600 ^{注2}	60	○
3840×2160 ^{注2}	30	○
4096×2160 ^{注2}	24	○

注1：次の場合は設定できません。最大リフレッシュレートは60Hzになります。
・HDMI接続

注2：HDMI出力端子を使用する場合に表示可能。

5.3.2 クローン表示の解像度

クローン表示する場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイの仕様により異なります。同時に表示する2つのディスプレイの、最大解像度より小さい解像度またはそれ未満の解像度で表示できます。

お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。

POINT

- ▶ お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ タブレット本体の液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ（アナログ接続／HDMI接続）

解像度	対応
1024×768	○
1280×720	○
1280×800	○
1280×1024	○
1360×768	○
1366×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1680×1050	○
1920×1080	○

5.4 無線LAN

本タブレットに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi®準拠）注1	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps（自動切り替え、HT20/40対応）注2
	IEEE 802.11ac準拠	867～6Mbps（自動切り替え、VHT20/40/80対応）注3
セキュリティ注4	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64／128ビット）注5 WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,740MHz	
チャンネル数注6	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11n準拠	・ 2.4GHzモード 1～13ch ・ 5GHzモード W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）
	IEEE 802.11ac準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch）

- 注1：Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注2：・IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。
・IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。
- 注3：・IEEE 802.11acではVHT20/40/80に対応しています。VHT80を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80に対応している必要があります。
・IEEE 802.11acを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80の機能を無効にしてください。
- 注4：IEEE 802.11n、IEEE 802.11acで接続するためには、パスフレーズ（PSK）をAESに設定する必要があります。
- 注5：WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。
- 注6：このタブレットに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

5GHz帯のチャンネルについて

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n/ac

W52 W53 W56

IEEE 802.11a/b/g/n/ac準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52：36（5,180MHz）/40（5,200MHz）/44（5,220MHz）/48（5,240MHz）
- W53：52（5,260MHz）/56（5,280MHz）/60（5,300MHz）/64（5,320MHz）
- W56：100（5,500MHz）/104（5,520MHz）/108（5,540MHz）/112（5,560MHz）/
116（5,580MHz）/120（5,600MHz）/124（5,620MHz）/128（5,640MHz）/
132（5,660MHz）/136（5,680MHz）/140（5,700MHz）

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

ARROWS Tab
Q737/R
Q737/R-PV

製品ガイド（機種別編）
B5FK-9411-01 Z0-01

発行日 2017年8月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。